

## 特集

## 2 特集 1 生徒指導

行事で育てる  
高め合う生徒4 座談会 現役教師4人が語る  
学級の力を高める学校行事とその指導とは

出席者◎千葉県浦安市立堀江中学校◎桂林良哉  
静岡県磐田市立磐田第一中学校◎神田憲興  
新潟県新発田市立東中学校◎北村泰  
東京都江東区立大島西中学校◎山下智子  
会◎お茶の水女子大大学院准教授◎伊藤亜矢子

10 インタビュー 座談会を終えて  
生徒の動きを引き出しその活動を見守る工夫を  
お茶の水女子大大学院准教授◎伊藤亜矢子12 学校事例 1 長野県 松本市立松島中学校  
「校歌1000人大合唱」で生徒の意識や生活態度を変える15 学校事例 2 神奈川県 厚木市立玉川中学校  
3学年縦割りの活動で認め合う心や責任感を育む

## 18 資料 行事や生徒についての関連データ



## 22 特集 2 新学習指導要領

新学習指導要領が示す

## これからの理数教育

25 研究者の視点 教科の原点を見つめ直して、日常生活の視点から教材を工夫する  
国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長◎工藤文三

## 28 特集 3 キャリア教育・進路指導

教師はコーチ、保護者は応援団長

## 3年秋からの進路指導

## 連載

## 19 教える現場、育てる言葉

## 現場で学ぶ瞬間の判断力と創意工夫

盲人更生援護施設◎(財)アイメイト協会

## 26 明日から使えるICT講座

第3回 調べ学習での情報収集 ひとしメディア教育開発センター教授◎中川一史

## 32 10代のための「学び」考

大村 智 北里研究所名誉理事長、日本学士院会員◎好奇心のおもむくままに得た知識が研究者としての土台を築いた

## 34 地方分権時代の教育行政

愛知県名古屋市 地域との連携を深める生徒の自主活動を支援

## 36 編集後記

## 特集

## 1

# 行事で育てる 高め合う生徒

教育活動において重要な役割を果たす学校行事。

生徒の気質や友だちとの付き合い方の変化を受けて、改めてその役割が期待されている。

また、学校によっては授業時数確保のために行事を精選するなど、

行事の在り方にも変化が見られる。

学校行事を更に効果的に生かすために、どのような工夫や取り組みができるのだろうか。

今号では、学校行事を通じた生徒指導について、

中学校現場の先生方の座談会と学校事例から考えていきたい。



# 学校行事に関する教師の意識——読者アンケートの結果より

図1 学校行事で育まれる力は「人間関係を築く力」「計画性」「粘り強さ」

Q. 学校行事を通じて、生徒が身に付けられる能力にはどのようなものがあると思われますか (複数回答)

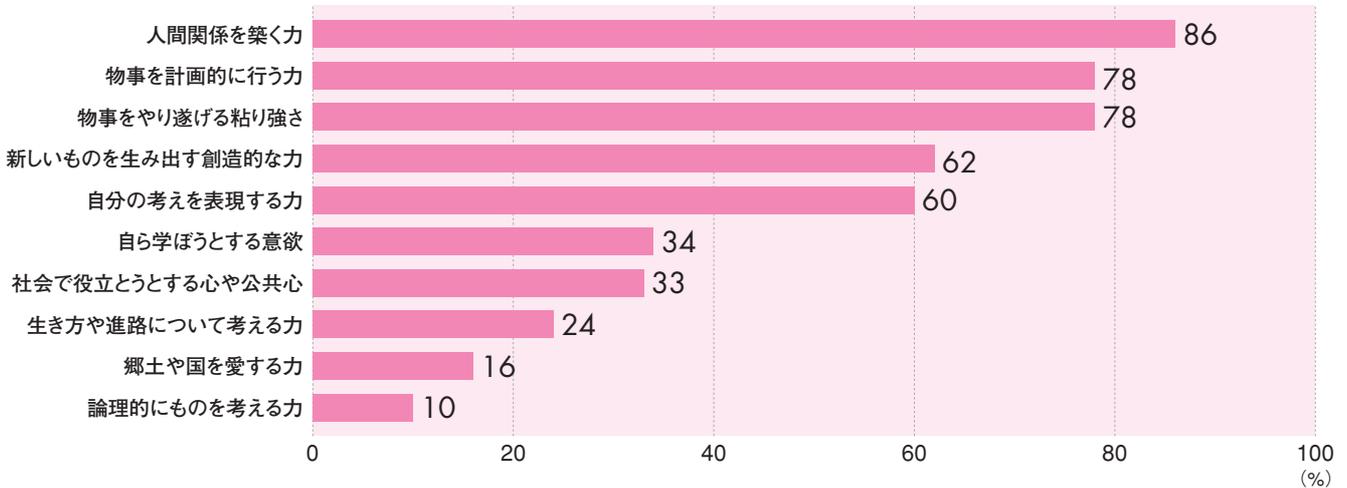
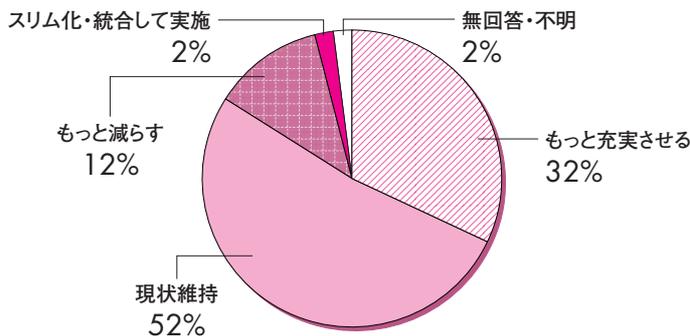


図2 学校行事の今後、「現状維持」が5割

Q. 貴校では学校行事を、今後どのようにしていこうと考えていますか



**【アンケート概要】**

- ◎実施主体:『VIEW21』編集部
- ◎対象:全国の『VIEW21』中学版読者モニター
- ◎実施時期:2008年6~7月
- ◎方法:『VIEW21』中学版2008年夏号に同送する形でアンケート用紙を配布、FAXにて回収
- ◎有効回答数:129

## 人間関係を築く力が行事で育つ

小誌が2008年6~7月に実施した読者アンケートによると、生徒が学校行事を通じて身に付けられる力のトップ3は、1位が「人間関係を築く力」、2位が「物事を計画的に行う力」、3位が「物事をやり遂げる粘り強さ」だった(図1)。いずれも8割前後の教師が「身に付く」と回答している。「1人の力だけでは達成できない目標に向かって頑張る」という、多くの学校行事に共通する特徴が、それらの能力を育てていると考えているようだ。

## 約3割が行事の充実を検討

図2は、勤務校での今後の学校行事に対する考えを尋ねた結果だ。「もっと充実させる」は約3分の1、「もっと減らす」は1割強、残りの約半数が「現状維持」と回答している。授業時数確保のためにさまざまな工夫が考えられている中、今回の結果からは、学校行事を削減する傾向は見受けられなかった。

次ページからは、行事の意義や指導の考え方などについて、現場の先生方による座談会を通して更に考えていきたい。

特集 1

行事で育てる高め合う生徒

## 座談会

# 学級の力を高める 学校行事とその指導とは

生徒を取り巻く状況が変化する中、改めてその役割が問われている学校行事。集団づくりや学級経営における学校行事の位置付け、

生徒の意欲の高め方、年間を見通した指導計画などについて、中学校の4人の先生と、

中学校の学級風土に詳しいお茶の水女子大大学院の伊藤亜矢子准教授に語っていただいた。

## 集団づくりや自己肯定感の育成に重要な「学校行事」

**伊藤** 生徒の集団づくりや学級経営に大きな意義を持つ学校行事ですが、先生方の学校では、どのような行事が、どのようなねらいで行われていますか。

**神田** 体育大会や学級対抗の合唱コンクールが、本校では盛んです。学校行事が、第一に学級のまとまりをつくることを目指して取り組んでいます。対抗戦に勝つのももちろん学級は盛り上がりませんが、負けても学級の団結力が高まれば、

行事は成功したと言えます。そのため、生徒が一丸となって行事に取り組めるような環境づくりを意識して指導しています。

**北村** 本校でも体育祭と合唱祭が中心行事です。体育祭は学年を超えた学級縦割りのチーム対抗で、3年生がリーダーとなり、1、2年生を引っ張っています。また、合唱祭は、文化祭がないために力を入れていて、市のホールを借り切って、学級対抗のほか、学年全体での合唱も切ります。本校は1学年3学級の小規模校ですから、学級だけでなく、学年、学校全体が一つになって盛り上がります。

**桂林** 本校には体育祭、合唱祭、文化祭があり

## 出席者

(五十音順)



千葉県浦安市立堀江中学校

桂林良哉

Katsurabayashi Yoshichika



静岡県磐田市立磐田第一中学校

神田憲興

Kanda Norioki

教職歴15年。同校に赴任して5年目。1学年担任、特別活動主任、国語科担当。男子バスケットボール部顧問。磐田市立磐田第一中学校：生徒数455人、学級数17

教職歴24年。同校に赴任して3年目。教務主任、数学科担当。男子ソフトテニス部顧問。浦安市立堀江中学校：生徒数454人、学級数13

ますが、それぞれ活躍する生徒が違うんです。学級経営では「生徒一人ひとりの居場所づくり」が最も大切だと思いますが、学校行事は、自分の個性を出して他者に認められることにより学級に居場所ができる。「自己肯定感が持てる機会」として行事を学級経営に組み込んでいます。

**神田** 私も、「この生徒はこの場面で活躍できるといいな」と考え、役割を意図的に与えるようにしています。それは、全員参加が前提の学校行事だからこそできるのだと思います。全員参加の意義は、社会性を身に付けられるという点にもあると思います。学校行事を成功させるためには、学級での話し合いが必要となります。目的を持った話し合いを繰り返すことで学級の自治力が高まりますし、みんなで決めたことだからという拘束もあって、忍耐力や協調性を高める機会にもなります。本校には集団で行動することが苦手な生徒がいますが、行事後、そうした生徒たちに人間的な成長が見られると苦勞も吹き飛びますね。

## 学級の雰囲気や学年に応じて かかわり方を変える

**伊藤** 生徒の成長のために、先生方はいろいろな工夫をされているのですね。

**桂林** 私は、担任がきめ細かく指導するというよりも、生徒みんなを同じ方向に向かせるには

どうすればいいのか、生徒自身に考えさせる機会を与えて、あとは任せるようにしています。生徒自身の力で同じ目標に向かう気持ちを抱いてほしいと考えているからです。実は、若いころに、合唱祭で曲選びや練習に口を出しすぎて、生徒の反感を買ったことがあります。

**北村** 私も、以前の勤務校で2年生の担任を受け持ったときに、合唱大会で曲選びなどに意見を言いすぎてしまい、その学級を持ち上がった3年生の大会では、「先生、今年は私たちだけでやりますから」と生徒に突き放された苦い経験があります。今は、学級の中心的な生徒を集めて、指揮者選びや選曲などで最低限配慮してほしいことを事前に伝えるだけで、あとは任せるようにしています。

**伊藤** 1年生ならば「大人の言うことを素直に聞く小学生」のような面がまだありますが、2年生は大人への反発心も出てくるころです。生徒の発達に応じた指導が大切ということですね。  
**桂林** そうですね。実際に指導していても、生徒の行事に対する思いは学年によって違うと感じます。1、2年生は「勝ちたい」という気持ち強いけれども、3年生になると、勝負だけでなく、ほかにも大切なことがあると気づくようになっていきます。

**北村** 同感です。3年生になると、「みんなと一緒にできるのはこれが最後」という思いが生まれて、2年生のときと比べて勝利にこだわったとげとげしさがなくなります。行事を自分た

司会



お茶の水女子大大学院准教授  
**伊藤 亜矢子**  
Ito Ayako

お茶の水女子大大学院人間文化創成科学研究科  
人間発達科学専攻発達臨床心理学コース  
准教授（臨床心理士）  
専門は、学校臨床心理学、コミュニティ心理学。



東京都江東区立大島西中学校  
**山下 智子**  
Yamashita Tomoko

教職歴18年。同校に赴任して3年目。  
養護教諭。  
江東区立大島西中学校 生徒数374人、学級数11



新潟県新発田市立東中学校  
**北村 泰**  
Kitamura Yasushi

教職歴24年。同校に赴任して2年目。  
2学年主任・学級担任、社会科担当、卓球部顧問。  
新発田市立東中学校：生徒数291人、学級数9

特集 1

行事で育てる高め合う生徒

ちの力で盛り上げようとして、学級がよい雰囲気になるんです。学級の成熟を踏まえた指導が、必要ですよ。一方で、大人になりかけて勝負にこだわる2年生の指導が一番難しいと感じています。その場合には、勝つための工夫もします。多くの先生がご存じかと思いますが、体育祭のリレー競技ならば、足が速い生徒と遅い生徒の順番を交互にし、バトンゾーンをうまく使うように指導しています。どの学年でも「勝利」が学級の目標になりますが、「学級づくり」という教師のねらいを実現するためには、学級の雰囲気に応じたかわり方が必要だと思います。

## 生徒の気質の変化に応じた距離の取り方が必要

**神田** 学級のまとまりをいかにつくるかが、学校行事のポイントの一つだと思います。そのためには、特に生徒同士の話し合いが重要だと捉えています。最近、生徒の気質が変わってきたのか、うまく進まないことがよくあります。普段の生活の中で、グループで話し合うような経験が少ないのかもしれない。

**山下** 私もそう感じます。お互いに思ったことを言い合い、その上で歩み寄る「話し合い」が

できない。言いつばなしで、友だちを傷つけてしまうのです。

**桂林** コミュニケーションが苦手な生徒は以前からいましたが、だれかが仲間になってあげていたと思うんです。それが今では、話さない相手にはだれもが距離を置こうとする。だからこそ、全員参加での話し合いが重要な学校行事は、学級をまとめるよい機会に位置付けられると思います。

**伊藤** そうですね。先ほど行事運営は基本的に生徒に任せるといってお話がありました。担任としてのかかわりはどのようになっていますか。  
**山下** 生徒に任せただけの場合、リーダーの存在が重要になると思いますが、徹底してリーダーにさせる先生と、リーダーの相談に応じて声をかける先生と、先生によって対応の仕方はさまざまですね。中には、「もう少し先生に声をかけてほしいな……」と思う生徒もいるようです。リーダーになるような生徒は責任感が強い。心理的なプレッシャーがあまりに強すぎて、保健室に来るような場合もあります。そうしたときは本当に辛い状況に置かれていると思いますから、養護教諭の立場から担任に、生徒に声をかけてもらうように伝えています。

**神田** 教師が出すぎると失敗してしまいますが、かといって、いないと生徒は不安になる。かか



わり方のバランスが大切だと思います。

**北村** リーダーとなる役割をできるだけ多く設けるのも、一つの工夫ではないでしょうか。責任を分担したり、話し合う仲間がいたりすることによって、一部の生徒だけが悩んでしまう状況が少なくなるでしょう。

**神田** 今の生徒は、リーダーになる経験が少ないうように感じていたので、その方法はよいと思



います。

**北村** 合唱祭なら合唱委員や指揮者、伴奏者、パートリーダー、音取りのリーダーなど、いろいろな役割があるので、よい機会となります。

**神田** リーダーにうまく役割を任せることで、行事の準備がうまくいくかどうかは、担任がどれだけ見ているかにかかっていると思います。普段から昼休みに教室にいるようにするだけでも、生徒の動きは自然と見えてきます。

**伊藤** それは重要ですね。私は担任の先生から学級経営の相談を受けたときに、「昼休みにで

きるだけ教室にいるようにしてみてください」とアドバイスすることがあります。それだけで学級の雰囲気が変わり、いじめなどの問題も解消していくことがあります。

**山下** 生徒は、先生が近くに来てくれるのが本当に嬉しいのだと思います。行事に限らず、保健室に来る生徒は「問題を解決してほしい」のではなく、「自分の話を聞いてほしい」ことが多いです。私が黙って話を聞いていると気持ちが悪くなるのか、特に言葉をかけなくても教室に帰っていきます。ですから、担任がそばにただいて、生徒の気持ちも違うと思うのです。

## 年度始めにつくった学級の基盤を行事をきっかけに強化する

**神田** 学校行事で学級がよい方向に進むかどうかは、年度始めに学級の基盤をつくるのが大事だと思っています。土台がしっかりしていれば、集団からはみ出る生徒がいても「先生、あの子には僕から話すから」という生徒がいて、生徒同士が声をかけ合える関係になっています。

**桂林** 教師よりも友だちから言われた方が、生徒もこたえますよね。

**神田** 特に4月の学級開きの時期が大切ですね。本校では、4月は校歌、5月は応援歌を朝のSHRで歌います。歌うことによって「本校の生

徒」という自覚を促していくのです。更に、6月末の中体連地区大会の壮行会に向けては、応援団が各学級を回って指導もします。「声が小さい！」と言われて、みんなで声を出していくうちに、学級の連帯感が生まれるようです。

**伊藤** どんなクラスメイトがいるのかわからないうちから声を出すことによって、学級の連帯感や帰属意識を高めていくわけですね。

**神田** 本校では5月に「学級目標発表会」を行います。その名の通り、1年間の学級の目標を発表するのですが、肩を組んで歌ったり、劇をしたりと、表現方法は自由です。自分たちの理想の学級はどのような学級か、それをどのように発表するかを、1か月かけて話し合っています。この過程こそが学級がまとまるきっかけになります。

**伊藤** 生徒同士の協力が必要な行事を、あえて年度当初に設けているのですね。

**神田** はい。ですから私は4月から、どのような学級にしたいかを生徒に話しています。中学校では「生徒の自立」が生徒指導の目的の一つですが、年度始めの時期に生徒と教師がとことんかかわった方がうまくいくと思います。

**桂林** 私は、卒業時にクラスメイトの前で自分の進学先を発表できる、そして、クラス全員が心から拍手を送れるような学級にすることを目標としました。これは、生徒が互いを認め合う関係にならなければできません。学校行事は、この目標に向けた学級づくりをする手段と

### 特集 1

## 行事で育てる高め合う生徒



捉えていました。

**伊藤** 年間の学校行事を見通し、行事ごとに段階的なねらいを設定して、指導されているわけですね。

**桂林** はい。前任校では体育祭、合唱祭、文化祭という順に学校行事がありました。そこで、スポーツで仲間意識が芽生え、合唱で共に達成感を味わい、文化祭はクラスを紹介するという

流れを意識して指導していました。また、行事の前には、行事のねらいに即した構成的グループエンカウンターを行いました。例えば、体育祭の前には集団の輪をつくるといった活動です。  
**伊藤** 体育祭、合唱祭、文化祭と、単に得点を取って「勝つ」ことから、学級の特徴を「理解」して「紹介する」という、より抽象的で高度な目標になっていくのですね。年間を通した学級づくりの流れに各行事を位置付けて、年間計画を立てる工夫ですね。

### 行事を通じて学校の「伝統」をつくる工夫を

**神田** 生徒のモチベーションを上げるためには、学級づくりと共に、行事自体の伝統をつくっていく工夫も必要だと思います。本校では、卒業時に、その学年の3年間の合唱コンクールを録音したCDをつくって配っています。また、卒業式で証書を渡すときにそのCDをかけます。後輩はその様子を見て、「自分たちの卒業式でも、クラスみんなで歌った合唱が流れるんだ」と特別な思いを抱き、3年生での合唱コンクールに臨むわけです。

**伊藤** それが続けることが学校の伝統となり、

生徒の行事への思い入れを強くしているわけですね。

**神田** はい。もう一つ、合唱コンクールでは優勝した学級は、アンコールでもう1回歌えることになっています。それも生徒にとってはやる気が高まるきっかけになっています。

**北村** 学校それぞれの伝統や独自の行事がありますよね。本校では、体育祭を学級縦割りで行っていて、応援団やリレーなどの指導を3年生が行います。同様に、地域のボランティア活動のごみ集めや草刈りを学級縦割りで行います。3年生は自治会の代表者の方との連絡係です。先輩から学校の伝統を引き継ぎ、次につないでいくことが生徒の意欲につながっています。

**神田** 伝統は、学校のアイデンティティづくりにも密接にかかわります。前任校は海のそばにあったため、「砂の造形大会」という学級対抗の行事が5月末にありました。砂浜の15メートル四方くらいのエリアに、学級全員でテーマを決めて、砂でオブジェをつくります。大変な労力がかかるので、やめようという話が毎年出ますが、これをなくしたら学校のアイデンティティが失われてしまうという議論になり、現在も継続しているようです。

**伊藤** 「学校行事を精選する」という声も聞かれますが、先生方の学校ではどのような状況で

でしょうか。

**山下** 本校は二学期制になったときに行事を精選しました。前任校では遠足も取りやめ、行事の準備に費やす時間も削りました。あまり行事が多すぎると、生徒が落ち着かないと感じることがあります。練習に熱中するあまり、けがも多くなります。夜中に近所の公園で練習していることもあります。そういったことが続くこと心配ですね。

**桂林** 行事自体を精選することが必要な場合もあります。行事の準備を効率化し、教師の負担を軽くする方法もあると思います。前任校では、体育祭の学年種目を毎年、生徒が話し合っ決めていましたが、時間と手間がかかりました。一方、現在の学校では毎年同じ種目にしていきます。今までしていたことを変えるのには反発があるかもしれませんが、体育祭の種目を厳選する、文化祭を半日にするといったことは、行事のよさを残しつつ、負担を減らす方法の一つだと思います。

## 行事を運営する ノウハウの共有を

**伊藤** 行事を進める校内体制はいかがですか。

**神田** 本校では、行事ごとにプロジェクトチームを立ち上げています。学校行事は校務分掌を超えた協力が必要だからです。行事後には生徒、

保護者、教職員それぞれにアンケートを取り、結果は次年度の行事の参考にしています。

**北村** 本校では、体育祭では体育科主任と生徒会担当主任を中心に実行委員会を立ち上げ、合唱祭は音楽科主任が中心となって運営しています。担任だけでなく、学年の教師全員で生徒を見るよう意識しています。

**神田** 学校行事についても指導法を学べる場があってもよいと思います。例えば、合唱コンクールは、音楽の専門知識を持つ先生とそうでない先生、新任とベテランとでは、やはり結果が違います。私は新任時にどのように指導すればよいのか悩みました。

**北村** 本校では、学級を超えて、学年団として生徒全員を見ています。例えば、給食時には、副担任も含めて学年団5人が毎日交替で3学級を訪れて食べています。行事や学級づくりについても、相談し合っています。

**神田** 話し合える先生が身近にいてくれるのはいいですね。

**伊藤** 指導の悩みは特に若い先生にあると思いますが、先生方への助言はありますか。

**桂林** 新任の先生は「まわりに聞くのは恥ずかしい」と思っ、一人で悩む傾向にあるようです。本校では、部活動がない日の放課後に校内研修会を開いたところ、ベテラン・新人を問わず、教師同士が気軽に話し合えるような雰囲気になってきました。指導力向上を目的に始めたのですが、職場の雰囲気づくりにも大きな成果

がありました。

**北村** 教科指導と同じように、学級づくりや学校行事に対する考え方や方法は、先生によってさまざまです。いくらすばらしい指導で真似したいと思っても、自分の個性に合わずできないことも多々あります。できるだけ多くの先生の指導を見て、自分に取り入れられるものを見つけていくことでしょうか。

**伊藤** 学校行事の指導や学級づくりにおいても、教科指導と同じく、たくさんモデルを見るのが大切だということですね。



## インタビュー

## 座談会を終えて

# 生徒の動きを引き出し その活動を見守る工夫を

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科  
発達臨床心理学コース 准教授(臨床心理士)

伊藤亜矢子

座談会では、先生方から行事に関する生徒のエピソードを数多くうかがいました。そこで改めて感じたのは、学校行事が生徒の成長に与える影響の大きさです。

授業とは違う場で、みんなの前で自分の意見を伝えたり、ほかの人の考えを知ったりしながら、一つのことに取り組み、一つのをつくり上げるといった体験は、教科学習だけではなかなかできません。行事ではクラスメイト全員が参加しかかわり合うという点も、学級づくりのよいきっかけになります。

このように、生徒によい影響を与える行事をつくるためのポイントは、次の3つにまとめられるのではないのでしょうか。

## ポイント1

### 学級の状況を考慮しながら 生徒を見守り、適切な手助けを

心理的な発達段階から見ると、中学生は教師の手を離れて自分で行動しようとする時期にあります。生徒が主体となって運営する学校行事は、自ら考えて試行錯誤し、大きく成長していくよい機会となります。

けれども、「生徒に任せる」ということは「指導しない」という意味ではありません。生徒にどの程度任せられる状態なのかを判断しながら、学級の成長に合わせて、適切に手助けすることが必要です。座談会で出たアイデアの中で、すぐに取り入れられそうな工夫の一つは、リー

ダーを複数設けることです。例えば、合唱大会では、指揮者と伴奏者だけでなく、パートごとにリーダーを設ける。リーダー同士が助け合え、負担を分散できるというメリットがあります。いろいろな生徒がリーダーを体験でき、学びのチャンスも増えます。

生徒に運営を任せたとともに、教師は生徒のそばにいて、様子を見守ることが重要です。過不足なく手助けをするためにも、生徒の状況を把握しておく必要があります。アドバイスは、「こうしなさい」と言うのではなく、「去年の先輩はこうしていたよ」とヒントを伝えるのが効果的な場合もあります。特に2年生になると「先生に指図されたくない」という気持ちも強くなります。支援の仕方も工夫のしどころです。

また、体育大会や合唱大会といった専門的な指導スキルが必要な行事では、行事の特性をつかむことで、スキル不足をカバーできるというお話がありました。例えば、体育大会のリレー競技ではバトンゾーンをうまく使う、合唱大会では会場が体育館か地域のホールかによって、声の大きさとハーモニーのどちらで勝負するかを決める、など先生方の「秘策」が印象的でした。こうした先生の工夫も、生徒の頑張りを支えるものの一つだと思います。

## ポイント2

### 学級づくりに 行事を計画的に活用する

学級を盛り上げるためには、新年度の開始前に学級づくりの方法を思い描き、4月から段階的に学級をつくっていくことが大切です。一つひとつの行事を単独で考えず、生徒一人ひとりや学級の成長の見通しを持ち、行事ごとの目標やねらいを明確に位置付けた上で取り組むことが重要なのです。

先生方が強調されていたように行事に対する生徒の意欲はさまざまです。行事の直前に「優勝しよう」と声をかけても、学級が団結すると



いとう・あやこ◎博士（教育学）  
専門は学校臨床心理学、コミュニケーション心理学。東京大大学院教育学研究科を単位取得満期退学。北海道大学教育学部助手等を経て、現職。著書に、『学校臨床心理学』学校という場を生かした支援』（編著、北樹出版）、『臨床心理学全書 第5巻 臨床心理学研究法』（共著、誠信書房）など

## ポイント3

### 学校の特色や地域性を生かす 行事の年間計画を

は限りません。4月の学級開きのときから、お互いを理解するための班日誌や、お互いに協力する活動を取り入れるなど、日々の積み重ねが重要になります。学級づくりの見通しを持ち、成長のチャンスとして行事をいかにうまく活用するかが求められるでしょう。

行事をどの順番でいつ行うのか、学校の伝統行事として根付かせていく工夫をするのかどうかなど、学校経営の観点から学校行事を見直す

ことも大切です。学校が求める生徒像や地域の環境によって、それぞれの学校が重視する行事は異なるでしょう。学校行事を「ほかの活動や行事との兼ね合いで」「前年度と同じだから」という消極的な理由だけで決めるのではなく、学校づくり、特色づくりの一つの柱にすることもできます。

例えば、先生方のお話にあった年度当初の学級目標の発表会や砂浜でのオブジェづくりは、学校や学級への帰属意識を早い段階から高めるきっかけとなります。こうした活動に学校全体で取り組めば、学校の雰囲気も違ったものになるでしょう。多くの生徒がその後のさまざまな活動に積極的な気持ちで取り組めるようになれば、集団としての力が増し、学校や学級の活性化につながります。

限られた時間の中で、学校行事に見通しを持って取り組むのは大変ですし、ベテラン教師からの指導ノウハウの継承が難しいという指摘もありました。しかし、学校行事を通して形づくられていく学級の雰囲気や団結力は、学びに向かう力の土台となります。生徒が「いい学級だな」「この学級の一員で嬉しい」と思えば、それが土台となって、毎日の学校生活が充実し、別の場面で力を発揮できることもあるでしょう。学級の成長と個々の生徒の成長は両輪になって進むものです。教育における学校行事や学級づくりの意義を今一度見直し、行事を学校づくりに生かしていただければと思います。

## 特集 1

### 行事で育てる高め合う生徒

## 学校事例

## 1

## 長野県 松本市立松島中学校

# 「校歌1000人大合唱」で 生徒の意識や生活態度を変える

全校生徒と保護者や地域の人々が一堂に会して校歌を歌い上げる……。松島中学校は2006年度から「校歌1000人大合唱」を毎年秋に行っている。この行事を通して、生徒はどのように変わっていったのだろうか。

## 全教職員が校歌を歌うことが、 生徒を動かす

多くの中学校では学級対抗の合唱コンクールが開かれるが、生徒はもちろん教師・保護者・地域の人々も参加する大合唱を行う学校がある。毎年秋の文化祭で「校歌1000人大合唱」を行っている松本市立松島中学校だ。2006年度に着任した吉江厚校長が、PTA作詞という同校の校歌に着目したのがきっかけだった。

「子どもの豊かな心を育むために、地域と一緒に取り組める活動はないだろうか」と模索していたとき、本校の校歌が地域に親しまれている

ことを知りました。学校と保護者、地域が一つになって歌う機会を持てば、生徒が心を開いて人間性が豊かになると思いました」（吉江校長）

同校の生徒は純朴な気質だが、当時は生活態度に落ち着きがなく、集団としてのまとまりに欠ける面があった。そうした生徒の意識を、地域の人々とかかわり合うことによって変えられるのではないかと考えたのだ。

教務主任の増田正先生は、校歌を作詞した当時、同校に勤務していた元教師を訪ね、作詞の経緯を詳細に聞いた。そして、秋の文化祭での校歌大合唱に向けた計画をまとめ、06年5月の職員会で全教職員で推進すると確認。これ以降、週1回、職員朝会後に全教職員で校歌を歌った。

School Data	
	長野県 松本市立 松島中学校
	1958年開校。校区には田園地帯が広がっていたが、近年、市街化の波が押し寄せている。「がまん・気づき・思いやり」という教育目標の下、地域の核となる学校として、学校・家庭・地域が一体となった教育活動を目指す。
校長	吉江 厚先生
生徒数	484人
学級数	15学級（うち特別支援学級2）
所在地	〒390-0851 長野県松本市大字島内3986
TEL	0263-40-1367
FAX	0263-47-3219
50周年記念式典日程	2008年11月22日（土）

「生徒に呼びかける前に、まず教職員が校歌を歌って範を示すことにしました」（増田先生）

全校集会の校長講話では、校歌ができた経緯や大合唱の企画を生徒に伝えた。6月には、全教職員が体育館の壇上に立ち、校歌を披露した。

「教師が大きな声で歌えば、生徒は驚いて、自分たちも校歌をしっかりと歌おうという気持ちになる」と考えました」（吉江校長）

教職員全員による合唱を聴いた生徒は、次のような感想を綴っている。

「私もちゃんと歌わなきゃという気持ちになりました」（1年生）、「普段ふざけている人はしっかりとやらなければいけないと思ったことだろう。確かに僕もそう思った」（3年生）



写真 授業参観日には、生徒と保護者、教師が体育館に一堂に会して、「校歌を歌う会」を行っている

## 自らの生活や進路を見つめ直すきっかけ

これを機に、生徒の様子が少しずつ変わり始めた。朝や帰りの学活で校歌を歌うなど、自発的な校歌練習が広がっていったのだ。

生徒を変えるために同校がもう一つ行ったのは、家庭や地域への働きかけだ。学校便りを使って随時保護者に情報を発信したところ、PTAの各会合でも校歌を合唱するようになった。

7月の授業参観日には、生徒と教職員に、保護者約170人が加わって校歌を合唱。更に、地域の回覧板で地域の人々にも参加を呼びかけたところ、参加を申し出る人がいた。増田先生は「地域の方々は、以前から学校に協力したい

と思っていたものの、どのようにかかわればいいのかわからなかったようです。これなら参加できると思っていただけたのじゃない」と話す。取り組みが地域へと広がる中で、道徳の時間を活用して、なぜ地域の人も熱心に校歌を練習してくれるのか、その背景にある気持ちを話し合う授業を行った。すると、生徒の地域に対する考えが変わっていったという。「大勢の地域の方の支えがあるから、今ここにいるんだと思いました」「地域の方々に感謝の気持ちを示すために精一杯校歌を歌いたい」など、地域の人

に共感する気持ち次第に芽生えていったのだ。

教師も例外ではない。増田先生は、「地域で生徒に温かい言葉をかけていただいたり、学校に向いて共に活動したりと、活動を続けるにつれ、私たちが地域に支えられていることを実感していきました」と話す。

### 松島中学校校歌

- 一 おおらかにまどかなる山  
鉢伏は心やわらけ  
おそかに 嶺しずまりて  
乗鞍はえり正さしむ  
われらみな 日々仰げば  
松島中学 校風きよし
- 二 奈良井川梓の川の  
淀みなく流るるたいら  
うるおいて穀倉となり  
ゆたかに文化はぐくむ  
学び舎はここに聳えて  
松島中学 希望あふれぬ
- 三 つくもぐさ 母校のしるし  
風雪にたえて咲く花  
身につけし学びのわざは  
たくまじき力の泉  
この国と世界のために  
松島中学 大志ゆめみん

保護者の意識にも変化が見られた。当初は「校歌を歌うことが何につながるのか」と疑問視していたある保護者は、「歌っているうちに話しかけるような気持ちになり、松島中学校という存在を抱きしめたくなるような気持ち心がわき上がってきます」と感想を寄せた。大合唱の取り組み前と比べて、学校に協力的な保護者も増えた。そして、9月の文化祭当日、

生徒・教職員・保護者・地域の人たち計約760人による大合唱が行われた。終了後には、全学級一斉に道徳の授業で振り返り学習を行い、大合唱の感想を書かせた。ある1年生は、全校生徒が週2回行っている登校中のゴミ拾いについて「自分から進んでやっていきたい」と記した。ある3年生は「自分にとって今やるべきことは、自分の進路について真剣に考え、自分でも変わっていくことだと思います」と書いた。地域への単なる感謝ではなく、自分が今やるべきことは何かを、具体的な行動として考える生徒が多くなった。

## マンネリ化を打破するため毎年ひと工夫を加える

「本校の校歌は斉唱ですから、毎年同じではマンネリ化してしまいます。それをどう打破するかが課題です。教師がただ『歌え』と言うだけでは続かないでしょう。校歌のすばらしさを具体的にいろいろな角度から生徒たちに投げかけなければなりません」(増田先生)

そうした問題意識から、翌07年度は、歌詞に焦点を当てた取り組みを進めた。歌詞の言葉が何を意味するのか、どんなメッセージが込められているのかを生徒集会などで生徒に考えさせました。その結果、自分なりに歌詞をかみ締め、大きな声で歌うという意識が高まっていた。

3回目となる08年度は、同校の創立50周年に

あたる。同窓会基金を活用して専門家に校歌の吹奏楽版を依頼。当日は吹奏楽部の演奏が新たに加わり、名実共に1000人の大合唱となる。今、毎週月曜日の朝、全学級で一斉に校歌を歌っている。もちろん職員会でも。校歌で心を一つにする試みは、確実に根付いてきている。

## 生徒同士がぶつかりながら、高め合う集団を目指して

08年度の3年生は、1年生のときから大合唱を経験している、いわば1期生だ。生徒はどのように成長したのだろうか。

例えば、登校中のゴミ拾い。ゴミを拾う1年生は50%程度なのに対し、3年生は70～90%と高い。「地域に入って、地域の人々と一緒に行動することが大切という思いが、生徒の間で高

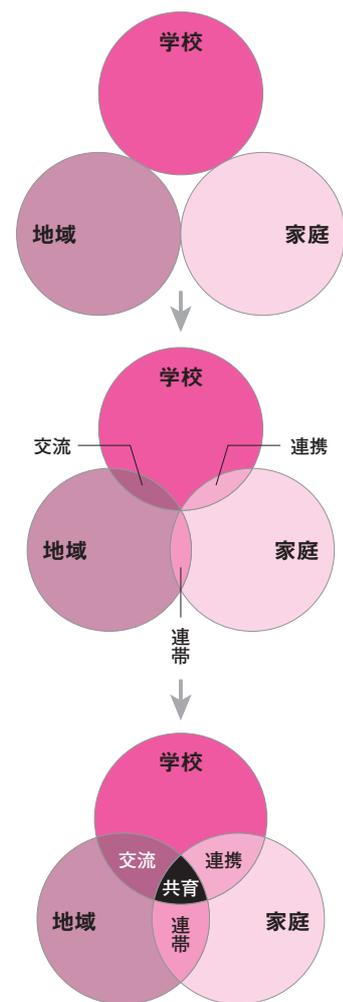
まった」というのが増田先生の実感だ。

あるとき、校内で器物が壊れていたことがあり、全校生徒と家庭に知らせた。自分がやったと名乗り出る生徒はおらず、生徒会が動いた。全校集会を開き、生徒会長が「まじめな子がばかりをみるようなことは、絶対に許せない」と訴えたのだ。数時間後、ある生徒が名乗り出た。

「教師から頭ごなしに『だれがやった』と言われたのではない、仲間の言葉が心に響いたのではないでしょうか。それは、必ずしも校歌合唱の効果というわけではないかもしれませんが。しかし、1年生のときから培ってきた集団の力が生んだ成果の一つだと私は考えています。その根幹には、地域や家庭に支えられて今の自分がある、学校があるという、感謝の気持ちがあると思います」(増田先生)

08年度の生徒会が掲げるスローガンは「団結

図 学校・家庭・地域による「共育」へ



学校・家庭・地域の三者がより良い関係を築きながら交流・連携・連帯の輪の重なりを増やしていく。そこに互恵性が生まれ、共に育ち合う中で子どもが健やかに育まれていく



松本市立松島中学校  
増田正 Masuda Tadashi  
教務主任



松本市立松島中学校校長  
吉江厚 Yoshie Asumi

「地域とつながり創る生徒会」。学校から地域へと、生徒自身の視野は広がっている。同校は新たな行事も計画中だ。それは、卒業していく中3生と、次年度に入学する小学6年生がエールを交換する「メモリアルコンサート」を09年3月に開くこと。中3生が校歌を歌うことで、学校を大切にしたいを小学6年生に託してほしいというねらいがある。

学校・保護者・地域が共に生徒を育てる「共育」の輪は着実に広がっている(図)。ただ、生徒同士で意見をぶつけ合いながら、お互いを高めていくような集団の力がまだ乏しいという。「地域の方々の姿が鏡になって、生徒は自分の生活を振り返り、『これではいけない』と少しずつ変わってきました。しかし、まだ発展途上です。08年度の重点目標は『集団づくり』です。お互いに高め合う生徒集団を一步ずつつくっていきたくと考えています」(吉江校長)

# 3 学年縦割りの活動で 認め合う心や責任感を育む

3 学年縦割りの「ブロック」単位での活動を取り入れている厚木市立玉川中学校。異年齢集団でのかわり合いを通して、お互いを思いやり、協力し合う心や、リーダーシップを育てる取り組みを紹介する。

## 学校行事から掃除まで 縦割りの「ブロック」で活動

玉川中学校が行う「ブロック活動」とは、約 500 人の全校生徒を学年・学級に関係なく約 40 人ずつの 12 ブロックに分け、学校行事をはじめとするさまざまな活動に、ブロック単位で取り組みというものだ。必要に応じて、ブロックを更に小さな班に分けて活動することもある。

例えば、6 月の体育大会では、午前の部は学級対抗で、午後の部はブロック対抗で行う。このほか、月 1 回のブロック朝会、月 2、3 回のブロック帰りの会、月 2 回のブロック昼食、ブロックで育てる花壇など、その活動内容は多岐にわたる（P.16 図 1）。放課後の清掃もブロッ

クの班単位で行い、教室や階段、トイレなどの校内の各所を回り持ちで掃除する。

学習活動にも、ブロック活動が取り入れられている。「総合的な学習の時間（以下、総合学習）」で取り組む「郷土学習」（年間 40 時間）だ。創作太鼓の練習や郷土料理づくり、近くの川にホタルを呼び戻す活動など、1 ブロック 1 テーマで、地域の協力を得ながら学ぶ。地域の人々との交流を通して生きる力を高めること、眠っている地域文化を生徒自身の手で掘り起こし、後世に伝えることがねらいで、ブロック活動の柱ともいえる取り組みだ。学習の成果は毎年 10 月末に行う「郷土学習発表会」で披露する（P.17 写真）。

同じく総合学習で行う「職場体験学習」も全学年が参加し、ブロックの班単位で行う。企画

### School Data



神奈川県  
厚木市立  
玉川中学校

1979（昭和54）年開校。緑豊かな自然に囲まれた校区には、大学などがあり、保護者の教育に対する

意識は高い。「Be friendly」（みんな仲良く）を合い言葉に、一人ひとりが大切にされ輝ける、学校づくりを目指している。

**校長** 市川美紀子先生

**生徒数** 494人

**学級数** 15学級（うち特別支援学級2）

**所在地** 〒243-0125  
神奈川県厚木市小野301-10

**TEL** 046-248-0329

**FAX** 046-248-0326

**URL** <http://www.edu.city.atsugi.kanagawa.jp/tamagawa-js/>

から訪問先への交渉、体験、発表まで、一貫して縦割り班で進めていく。

教務主任の三栖寛美先生が、「本校は学級単位とブロック単位の二段構えです」と話すように、「学級」という横糸と「ブロック」という縦糸が交差した学校生活となっているのだ。

## 他者との「認め合い」や リーダー意識を育む

同校がブロック活動を始めたのは 1995 年度だ。86 年度に近隣に新しい中学校が開校して校区が分割された影響で、88 年度に 700 人を超えていた生徒数が、95 年度には 400 人を割り込んだ。規模が縮小しても学校の活力を保つためのブロック活動導入だった。その後、学校

## 図1 日常のブロック活動

- ・**ブロック朝会**  
基本は第4週の月曜日。ブロック長12人が企画したレクリエーションや行事を開催する。
- ・**清掃活動**  
放課後、毎日10分間、各ブロックの班単位で行う。終了後には班長を中心に反省会を開く。
- ・**ブロック帰りの会**  
清掃の引き継ぎの際など、月2、3回開く。清掃の取り組み状況を反省し、次に担当する班へアドバイスをする。
- ・**ブロック昼食**  
月2回ほど、裏山や校庭などで、ブロック全員で輪になって弁当を食べる。
- ・**ブロックレク**  
ブロック朝会やブロック昼食のあと、ブロック単位でレクリエーションを行う。担当教師も参加する。

選択制が導入された2005年度以降は、ブロック活動が人気の一つとなり、生徒数は増加。07年度には再び400人を超えた。現在は「異年齢の中での育ち合い」をブロック活動のねらいとしている。

この活動は、異年齢のさまざまな生徒のかわり合いを生み、互いを認め合い、助け合う、思いやりの心の醸成に大きな影響を与える。また、学年が上がるにつれて、リーダーとしての自覚を芽生えさせることも大きな効果だ。

「Aくん、こっちに来て一緒にやろうよ」

ブロック活動中に何もしていない1年生がいると、2年生や3年生は当たり前のように声をかける。三栖先生は、「1年生の様子に気づかない3年生もいますが、その1年生ではなく、

3年生に教師が声をかけて、上級生としてすべきことをさりげなく促しています」と話す。

「バトンタッチ」——夏休みが明けると、2年生の間にこの言葉が飛び交う。入学時から上級生に面倒を見てもらってきた自分たちが、今度リーダーとしての役割を受け継ぎ、後輩を引っ張っていくという意識が高まるからだ。3年生にとって最後の大事な仕事である10月の郷土学習発表会の閉会式で、3年生が最後の挨拶を述べた直後に「ちょっと待った！」と2年生が声を上げる。毎年恒例の儀式として、2年生が3年生に向けて感謝の言葉を述べ、歌を歌うのだ。

## リーダーの資質を伸ばし 生徒全員を「見守る」

ブロック活動を率いる「ブロック長」は、生徒の憧れの的だ。活動の成否を握る存在とあって、全校生徒による選挙で選出される(図2)。

ブロック長は、10月から次期ブロック長候補の2年生にブロック運営を実質的に任せる。12月には次期ブロック長希望の2年生を集め、現ブロック長による「ブロック長リーダー研修会」を開き、リーダーのあるべき姿や心構えなどを伝える。選挙は翌年1月に行われるが、他薦はなく、すべて立候補。演説をし、全校生徒によ

## 図2 ブロック長選出とブロック編成の流れ

- ブロック長の選出**  
12月◎ブロック長リーダー研修会  
現ブロック長が次年度のブロック長希望者を募り、リーダーのあるべき姿や心構えなどを話し、ブロック長になろうという気持ちを強くさせる(ここで、ブロック長選挙に立候補する生徒とそうでない生徒に分かれる)。
- 1月◎ブロック長立会演説会・投票  
ブロック長に立候補した生徒は、リーダーとしての自分の考えを語り、自分への投票を願う。  
◎新ブロック長の発表  
新ブロック長が変装して登場するなど、出し物を工夫して発表する。
- 新ブロックの編成**  
卒業式後◎次年度のブロック編成作業  
新2年生と新3年生の編成については、新ブロック長が編成カードを作成し、新ブロック長の討議により決めていく。教師は立ち会うが、基本的には口は挟まない。新入生は教師側で編成し、新ブロック長が作成した編成と合わせる。
- 4月◎新ブロック発表  
1学期始業式の当日、新年度のブロックメンバーが一斉に発表される。

る投票を経て、新しいブロック長が決定する。

08年度の選挙では18人が立候補し、男女各6人の計12人が選出された。ブロック活動全体を統括する岡田渉先生は、「ブロック長に選ばれるのは、学級のリーダー的な生徒とは限りません。普段は目立たない生徒もいます。意欲が最も重要となる役割ですから、どの生徒も持っているリーダーの資質を伸ばし、あと押しができれば、教師は心がけています」と話す。

新年度には所属ブロックが変わる。編成を決めるのはブロック長だ。12人が集まり、男女比



写真 毎年10月に行われる「郷土学習発表会」では、4月から各ブロックで調査法やまとめ方を検討し、学習を進めてきた成果を発表する。この日に向けて、リハーサルも重ね、発表の仕方も学ぶ

や兄弟姉妹、友人関係などを考慮し、約500人の生徒を12のブロックに割り振る。「郷土学習」のテーマもブロックごとに定められるため、自分の意にそぐわないブロックだと感じる生徒もいる。その際、保護者から「子どもの希望をくんでほしい」と連絡がくることもある。しかし、市川美紀子校長は「ブロック活動は、仲良しグループではなく、教育活動として行っています。集団の中でいかに学び、育て合うかが目的です」と保護者に説明し、理解を求めている。

各ブロックには1、2人の教師がサポート役に付く。活動の内容は、ブロック長が月1回集まる会議で決まり、教師は企画内容について事前に報告を受けるのみだ。活動自体の支援はするが、教師は一步引いた裏方として、目的や進む方向がずれないように見守る。

市川校長は、ブロック活動における教師の位置付けを次のように話す。

「教師は出張があつて顔を出せない日もありますが、活動の場に突然訪れても、ブロック長が『先生、今日はこれをお願いします』と計画を指示してくれます。ブロック長に全体を引っ張ってもらう一方で、私たち教師は一人ひとりの生徒に目を配り、より充実した活動に導くことが役割なのです」

## 学級とブロックの両立を目指して

ブロック活動には、新入生がいわゆる「中1ギャップ」を感じず、中学校にスムーズに馴染める効果もある。4月上旬に行う「ブロックオリエンテーション」では、3年生が「学校生活でわからないことがあつたら、何でも聞いてね」と新入生に声をかける。新入生は上級生にも怖じずる間もなくブロック活動に溶け込んでいく、というわけだ。1年生と3年生が一緒に遊ぶ光景は、同校ではよく見られる。同学年や部活動の仲間以外に異学年の友だち、知り合いがいるため、学校全体がなごやかな雰囲気だ。

教師にとっては、ブロックを担当することによって、他学年の情報が入りやすくなる効果がある。「ブロック活動でいつもと様子が違う生徒がいた場合、その生徒の担任に声をかけることがあります。生徒が担任に話しにくいことがあつても、ブロック担当の他学年の先生に話をすることもあるでしょう」と三栖先生は話す。学年を超えて、学校全体で生徒を見守っているという意識が同校には根付いているのだ。

ブロック活動は開始から10年以上が経ち、同校の伝統ともいえる教育活動となった。ただ、生徒が増えて、教師の目が行き届くごちんまりとした集団を結成しづらくなり、ブロック活動がしにくくなった面があるという。

「ブロック活動が定着した今、同年齢の交流の場である学級運営にも力を入れたいと考えています。ブロック活動との両輪で、学校の更なる活性化を目指します」（市川校長）

リーダーの育成も課題だ。といっても、ブロック長などの表立ったリーダーだけではない。三栖先生は、「表に出ていない生徒の可能性を見付け、磨きをかけるのが私たち教師の仕事です。担任として、ブロック担当として、生徒一人ひとりの活躍の機会を広げ、それぞれがリーダーになれる、輝けるような場面をつくることを目指します」と、今後の意気込みを語った。



厚木市立玉川中学校  
三栖寛美  
Misu Hiromi  
教務主任、英語科担当



厚木市立玉川中学校  
岡田 渉  
Okada Wataru  
ブロック活動担当、保健体育科担当

図1 新学習指導要領における特別活動(注)の位置付け

「改善の基本方針」(抜粋)

- ・望ましい集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築くとともに、公共の精神を養い、社会性の育成を図るといふ特別活動の特質を踏まえ、特によりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視する。
- ・自分に自信がもてず、人間関係に不安を感じていたり、好ましい人間関係を築けず社会性の育成が不十分であったりする状況が見られたりすることから、それらにかかわる力を実践を通して高めるための体験活動や生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢の子どもたちからなる集団による活動を一層重視する。

注 中学校では、学級活動、生徒会活動、学校行事の3つの内容で構成

「改善の具体的事項」

(中学校)  
 (ウ) 学校行事については、集団への所属感や連帯意識を深めつつ、学校や社会の中での様々な人とのかかわり、生きること働くことの尊さを実感する機会をもつことが重要である。また、本物の文化に触れ、文化の継承に寄与する視点をもつことが必要である。これらのことを踏まえ、職場体験、奉仕体験、文化的な体験などの体験活動を重視する観点から、学校行事の内容について改善を図る。

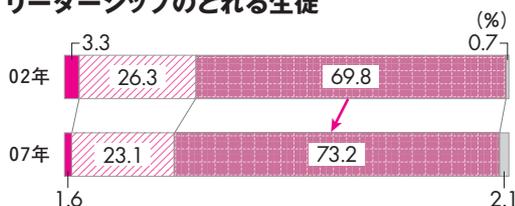
出典/中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(答申)より引用  
 ※太字強調は編集部による

図2 教師が感じる生徒の変化

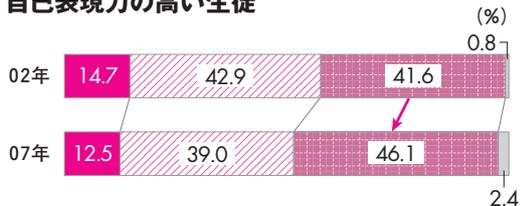
「数年前と比べて生徒はどう変わってきていると思うか」という質問に対し、2002年よりも07年の方が、「リーダーシップのとれる生徒」、「自己表現力の高い生徒」、「やる気や自信を持っている生徒」は減っていると感じる教師の割合が増えている。このような生徒の育成に、学校行事が果たす役割は大きいと考えられる。

■ 増えた □ 変わらない ■ 減った □ 無答不明

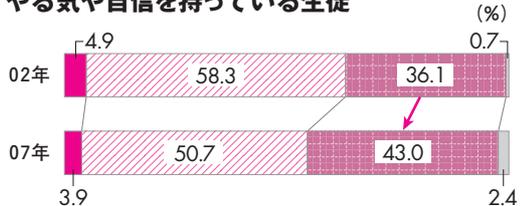
リーダーシップのとれる生徒



自己表現力の高い生徒



やる気や自信を持っている生徒



出典/Benesse教育研究開発センター「第4回学習指導基本調査報告書」

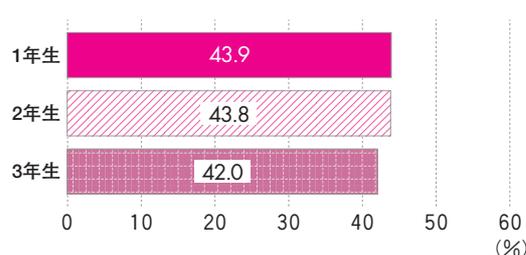
調査概要や詳しい調査結果は、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトをご参照ください  
<http://benesse.jp/berd/>  
 →HOME>調査・研究データ>学校・教員の実態や意識について>第4回学習指導基本調査

図3 中学生の友だちとの関係

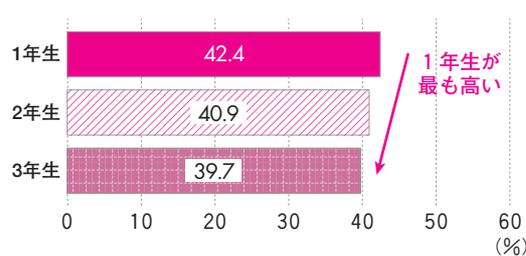
4割以上の生徒が、仲間はずれにされないよう話を合わせるなど、緊張感を持って過ごしている様子がうかがえる。一方で、年齢や性別の違う人と話をするのは楽しいとも感じている。行事が異年齢の交流を生んだり、友だち関係を広げるきっかけになったりすれば、生徒の人間関係はより豊かになるのではないだろうか。

\*「とてもそう」+「まあそう」の合計

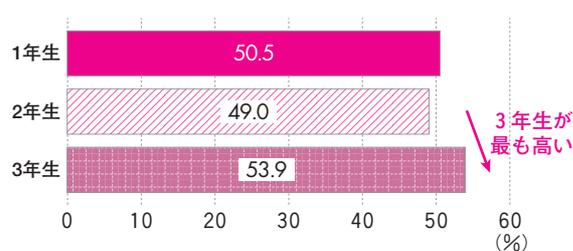
仲間はずれにされないように話を合わせる



友だちと話が合わないと不安を感じる



年齢や性別の違う人と話をするのが楽しい



出典/Benesse教育研究開発センター「第1回子ども生活実態基本調査報告書」

調査概要や詳しい調査結果は、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトをご参照ください  
<http://benesse.jp/berd/>  
 →HOME>調査・研究データ>小学生～高校生の学力・学習について>第1回子ども生活実態基本調査

盲人更生援護施設 (財)アイメイト協会

# 現場で学ぶ 瞬間の判断力と創意工夫

## 視覚障害者の歩行指導を通して社会参加する

高校を出て間もない若者が、真剣な表情で犬の訓練に取り組む。犬舎の清掃、排便の世話もする。盲導犬を「目」として、視覚障害者の社会参加を支援するアイメイト協会では日常の風景だ。「犬が好き」なだけではできない仕事だが、盲導犬による視覚障害者の歩行指導員を目指す者にとって、ここは仕事を通して自らが社会参加する場でもある。

### 見習期間中に「観察する目」を養う

夕方5時近く、1日の歩行指導が終わる。盲導犬を使った視覚障害者の歩行指導では、ときに1日10kmも歩くことがある。休む間もなく今度は盲導犬の食事の時間だ。「アイメイト協会」の建物の2階、視覚障害者が歩行指導を受ける4週間の間、指導員と共に寝泊りする宿舎。指導員は視覚障害者に犬への食事の与え方も指導する。

これからの長い時間、文字通り寝食を共にする視覚障害者と盲導犬の間に、「目の仲間」としての信頼が育まれる時でもある。歩行指導員の仕事に就いて35年、中野薫さんが、犬の扱いに不慣れな視覚障害者に助言する声が静かに流れる。人と犬の信頼関係がスムーズにいくようにに図ることは、指導員にとって重要な仕事だ。その様子を、見習生の1人がじっと見守る。



盲人更生援護施設 (財)アイメイト協会

## Profile

1948年、塩屋賢一会長が盲導犬育成を志し、試行錯誤で始め、57年には国産初の盲導犬「チャンピィ」を誕生させた。71年には東京盲導犬協会を設立し、89年、アイメイト協会と名称を改定。これまでのほぼ50年間に、1000頭以上の盲導犬アイメイトを育成。アイメイトを「目」として自立した視覚障害者は1000人を超える。現在、年間40~45頭のアイメイトを育てる。

### 盲導犬

◎盲導犬の歴史は古く、西暦79年、火山の噴火で埋もれたポンペイの発掘品に、犬に引かれて歩く盲目の音楽師の姿などが描かれた遺物が見つかった。日本では、1939年、4人の実業家が、ドイツから盲導犬を1頭ずつ輸入、陸軍に献納したのが最初とされる。本格的に盲導犬の育成が始まるのは、戦後になってからである。国内の視覚障害者の数は厚生労働省統計で約38万2700人とされる(2004年)。

現在、「アイメイト協会」の職員は、歩行指導員6人、研修生6人、他に事務局が4人の計16人である。一人前の歩行指導員になるためには、3年の見習期間と2年間の研修を経験するこの間、見習生にとっては「観察する目」を養うことが大切になる。

盲導犬による歩行指導の現場では、予期しないことが起きる。そのどれもマニュアルで対応できる問題ではない。中野さんが、こう説明する。

「大事なのは瞬時の判断と創意工夫です。盲導犬が視覚障害者を正確に誘導しないときにどうしたらいいか？それは状況によって皆違います。その場で自分で考え、適切な解決法を見つけて、指導しないとけない。歩行指導員に求められるのは、その時々々の判断力です」  
そのときのためにも普段から視覚障害者と盲導犬の動き、先輩指導員の反応を観察することが重要になる。「どんな小さな動きも見逃さないことが大切です」と中野さんはいう。

現場で学ぶ  
瞬間の判断力と創意工夫  
視覚障害者の歩行指導を通して  
社会参加する

見習生にアイメイトの訓練を指導する中野さん



路上で歩行指導を受ける4週間、視覚障害者はざっと130kmほどの距離を歩く。その間、さまざまな状況に応じて盲導犬との呼吸を合わせていくが、それには見習生も付き従うことが多い。視覚障害者にとっても、見習生にとってもかなりのハードワークだ。

ある見習生が、協会の機関誌にこう書いている。「自身の未熟さを思い知らされ、いい経験をしている。鍛錬を積み、訓練・指導を学ぶことで、様々な出合いを経験し、自分を成長させていきたい」

本当に視覚障害者の自立を支援しようと思ったら、視覚障害者と1対1の人間として向き合う場面も出てく

る。しかも多くの場合、視覚障害者は歩行指導員よりも年齢が高く、人生経験を積んでいる。日常生活を含めて、そういう人を指導するということは、指導する側の人間性が問われることを意味する。「そのためにも自らを磨かないといけない」と、若い見習生はいう。

### 「主体は人間である」という 基本理念

現在、日本には盲導犬に関係する団体が9団体ある。歴史的には「アイメイト協会」が最も古く、協会がこれまでに育ててきた盲導犬は、1000頭を超える。「アイメイト」とは、アイメイト協会で育成された盲導犬に対する協会独自の呼び方で、「私の愛する目の仲間」を意味する。

協会にとって重要課題の一つは、歩行指導員の養成である。指導員の仕事は、大きく二つある。盲導犬の候補犬ラブラドル・レトリバーに基礎訓練、誘導訓練を施し、「アイメイト」に育て上げること。そして、視覚障害者に「アイメイト」を使って歩行する技術を指導することだ。

塩屋隆男理事長は、歩行指導員を目指す見習生に常にかう話しかけているという。「ここでは犬の訓練もしています。しかし、メインの仕事はその先にある。『自分で歩く』という視覚障害者の意欲をバックアップすることです。人との付き合いが苦手なので、好きな犬の世話をしたいという人もいますが、この仕事ほど人と濃密に向き合う仕事はない。まずそれを理解しないと、歩行指導員は務まりません」

協会の建物には、点字ブロックや点字プレートなど視覚障害者の歩行を手助けする設備が一切ない。ここには

「アイメイト協会」の理念が込められている。

「視力はなくても、自分でできることは自分でする。人の助けを受ける立場からむしろ『与える立場』に変わることが大事です。視覚障害者が、依頼心を捨てて、自主独立の精神で社会参加する気持ちが大切であり、私たちがそのお手伝いをしているのです」と、塩屋理事長はいう。

点字ブロックや点字プレートが必要な場所もある。だが、それ以外のところでは、そうした設備に頼らなくても、視覚障害者が盲導犬といっしょにどこでも自由に外出できるようにする。「アイメイト」を連れている時、晴眼者の手を借りず、白杖も使わないのは、「自分で歩く」という視覚障害者の意思を大事にしているからだ。

「主体は人間」の考え方は、歩行指導員の養成にも反映される。「盲人にできないことにだけ手を貸す」との方針で、視覚障害者が普通の人と同じ生活が送れるように助言をすることを要求するのだ。それは歩行姿勢から言葉遣い、ナイフやフォークの使い方、食事の仕方など日常生活の態度にまで及ぶ。指導する側も視覚障害者と「1人の自立した人間」として対応するのである。

現在、研修生は6人。全員女性で、皆20歳から22、23歳と若く、大学を出てこの仕事を選んだ者もいる。視覚障害者の自立を支援するために、若者に求められるハードルは極めて高い。

## 「自ら体験し、考え、学ぶ」が成長の鍵

見習期間の3年間は、毎年の大よそのカリキュラムが決まっており、犬の飼育、管理、衛生、生態から始まり、犬の心理や繁殖、血統、遺伝、あるいは獣医学の初

歩的な知識を学んでいく。

こうした犬に関する知識の習得と並行して、点字や社会福祉、盲人の心理、目の構造・疾病などに関する基礎も勉強する必要がある。とはいえ、教室で教えてもらうのではなく、あくまでも実践主義で、「自ら体験し、考え、学ぶ」が基本だ。見習生になって2か月もすると、犬を訓練する仕事も始まる。最初は親切に教えてもらっても、後は自分で考えてやることになる。

見習生の1日の仕事を見ると、朝8時に全体のミーティングがあり、続いて全員で犬舎の清掃、犬の排便、ブラッシング、飼料づくりなどの雑用をこなす。犬舎には70頭ほどの犬がおり、この作業を手際よく進めなければならぬ。

2年目に入ると、自分が担当する犬の訓練に取り組む。特に前方に障害物がある場合や、頭上に何か飛び出しているものがあるときなど、視覚障害者がぶつからないよう回避して通る訓練をする必要がある。経験が浅いと試行錯誤を繰り返す。

見習生が視覚障害者の歩行指導に少しずつ関わるようになるのは、3年目に入ったころからである。前出の見習生のように、先輩指導員が歩行指導をしているのを観察することから入り、徐々に指導役を譲られていく。研修生になると、自分で歩行指導を担当するなど視覚障害者との関わりは深くなる。

歩行指導員に求められる資質について、塩屋理事長はこう話す。「相手の気持ちを理解し、その立場に立てるかどうかが。その人の気持ちになるということは、決して同情することではありません。人間としての幅が非常に重要になります」

見習生・研修生には、人前で「話す場」を設けて、自

分の考えを発表させることもある。指導員にとって、自分の考えを目の見えない相手に正確に伝えることが不可欠なこともあるが、話すことでその人の人柄が分かるからである。

## 視覚障害者が自立するプロセスに関われる喜び

5年間の見習いと研修を経て、協会の理事が「合格」の承認を出すと初めて歩行指導員になることができるが、仕事のハードさに、途中で辞める見習生もいる。だが、それでも指導員になりたくて頑張る若者がいる。定期的募集するわけではないが、応募者も募集人員の5〜6倍は来る。「そこに他にない魅力があるからではないですか」と塩屋理事長はいう。

「歩行指導で常に行動を共にしていると、視覚障害者に精神的な変化が生じてくるときがあります。『アイメイト』によって主体的に生きていける喜びから、人生観や生き方が変わってくるのです。指導員はそのプロセスに関わっている。若い人にとっても、それは嬉しいと思います」

あるとき、ようやく「アイメイト」の訓練に携われるようになった見習生が、やはり機関誌にこう感想を書いた。「使用者が『アイメイト』と共に旅立っていく姿を見ると、この仕事は犬の訓練ではなく、使用者一人ひとりの人生を豊かにすることだと感じる」

この見習生も「犬が好き」というのが、この道を選んだもともとの動機である。それが見習生になって1年余り、自分の使命の重さを自覚するようになった。歩行指導員という仕事は、視覚障害者の人生に深く関わることで、指導員自身が社会と向き合っているのである。

## 特集

## 2

## 新学習指導要領が示す

これからの  
理数教育

「理数教育の充実」を掲げる新学習指導要領では、どのような学力の育成が目指されているのか。数学および理科の改訂のポイントやこれから準備すべきことを整理すると共に、求められる指導のポイントを国立教育政策研究所の工藤文三先生にうかがった。

◆ 今号のキーワード〈理数教育〉〈改訂のポイント〉〈指導の改善〉

なぜ「理数教育の充実」が  
求められているのか？

新学習指導要領では、「理数教育の充実」が柱の一つに掲げられている。その背景は、次のように整理できる（注）。

## ① 「知識基盤社会」への対応の必要性

21世紀は、「知識基盤社会」とも言われる。知識基盤社会では、新しい知識や情報、技術が、政治や経済、文化といったあらゆる領域での活動の基盤として重要性を増す。また、科学技術は競争力と生産性向上の源泉であり、国際的な競争が激化している。科学技術立国を目指す日本では、科学技術の土台となる理数教育の充実

は欠かせない。

## ② 理数教科への関心の低さ

日本の子どもの理数教科に対する関心は、国際的に見て低い傾向にある。2003年、国際教育到達度評価学会（IEA）が中学2年生を対象に実施した国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）では、「将来、自分が望む仕事にくつためにより成績を取る必要があるか」という質問に対し、「強くそう思う」「そう思う」と回答した生徒の割合は、数学については国際平均の73%に対し、日本は47%であった。理科についても国際平均の66%に対し、日本は39%にとどまっている。

また、06年に15歳児（日本では高校1年生）

を対象に実施した経済協力開発機構（OECD）

のPISA調査では、「大人になったら科学の研究や事業に関する仕事がしたい」と回答した生徒の割合は、OECD参加国平均の27%に対し、日本は17%であった。その他の設問からも、科学への興味・関心や楽しさを感じる生徒の割合が比較的低いことが明らかになった。

## ③ 「言語活動の充実」との関連

今回の学習指導要領の改訂では、思考力・判断力・表現力等を育てるため「言語活動の充実」が重視されている。08年1月の中央教育審議会が重視されると、そのために「比較や分類、関連付けといった考えるための技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用して説明する」など

注 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」を基に編集部が整理

の活動が重要とされている。こうした活動を行う場として、理数教科が期待されている。

## 理数教育の充実に向けた改訂のポイント

今回の改訂のポイントを、08年1月の中央教育審議会答申を基に整理すると、以下の通りとなる。

### 【授業時数】数学70時間、理科95時間の増加

理数教育の充実に向けた具体的な方策として、柱の一つとなるのが授業時数の増加だ（P.24図2）。基礎的・基本的な知識・技能に関する繰り返し学習の時間を確保するためと位置付けられている。数学では「数学的活動」などを通して数量や図形に関する知識・技能の活用、理科では観察・実験などの時間を十分に確保。両教科で「わかる喜び」「学ぶ意義」を実感させて、興味・関心や学習意欲を高めることが求められている。

### 【学習内容】学年間、学校間の接続を踏まえた系統性を重視

学習内容の系統性、小学校・中学校・高校での学習の円滑な接続が重視されている。例えば、理科では、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」という四つの概念を柱とし、小学校から高校までの内容が構造化された。理数教科では、学習の円滑な接続を図る観点から、必要な指導内容について充実を図る必要性が示されている（図1）。

### 【教育条件】学びの環境の整備

教育条件の整備も重視されている。習熟度別・少人数指導の充実に向けた教職員定数の改善、理数教育の設備の整備などの必要性が指摘された。加えて、繰り返し学習や自ら発展的な学習に取り組みことを促す教科書の充実も求められている。また、理科や数学の入試問題で、思考

力・判断力・表現力等を問うような工夫を行うことも求められている。

## 移行措置期間中の授業時数・内容の変更点

数学、理科共に、新学習指導要領に円滑に移行できるように、09年度から11年度までの移行措

図1 数学と理科で身に付けるべき力と改訂の要点、具体的事項

	数 学	理 科
「身に付けるべき力」 特に重視されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な知識・技能</li> <li>○数学的な思考力・表現力</li> <li>○学ぶ意欲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○科学的な概念の理解など、基礎的・基本的な知識・技能</li> <li>○科学的な思考力・判断力</li> <li>○理科を学ぶことの意義や有用性の実感</li> </ul>
指導にかかわる改訂の要点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）による指導を充実</li> <li>○国際的な通用性、内容の系統性、小・中・高等学校での学習の円滑な接続等の観点からの指導の充実</li> <li>○「数学的活動」を通して、学ぶことの意義や有用性を実感させる指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「4つの領域（エネルギー、粒子、生命、地球）」を軸として、小・中・高等学校を通じた学習内容の一貫性の確保</li> <li>○国際的な通用性、内容の系統性、小・中・高等学校での学習の円滑な接続などの観点からの指導の充実</li> <li>○科学的な思考力・表現力の育成の観点から、観察・実験の結果を分析し解釈する学習活動、また科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動の充実</li> <li>○理科を学ぶことの意義や有用性の実感および科学への関心を高める観点から、日常生活と科学との関連を重視</li> </ul>
改訂の具体的事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の「数と式」「図形」「数量関係（「関数」に改める）」に、確率・統計に関する領域「資料の活用」を追加し、4領域の構成とする。</li> <li>・時数の増加により、生徒のつまずきに対し、きめ細かく指導するようにする。また、新たな内容に入る前に、既習の内容を学び直して理解が深まるようにする。</li> <li>・各学年の内容において、「数学を生み出す活動」「数学を利用する活動」「数学的に伝え合う活動」など、数学的活動を積極的に取り入れる。</li> <li>・「数と式」の領域では、文字を用いて一般的に考えることの必要性やよさについての理解を深めたり、身のまわりの数量やその関係を数や文字を用いた式で表現したりすること、式を手順に従って能率的に処理すること、更に式の意味を読み取り自分なりに説明することを重視する。</li> <li>・「図形」の領域では、体験に基づく実感的な理解を基に、身のまわりにあるものを図形として捉え、その性質や関係などを明らかにすること、図形の性質などを根拠を明らかにして筋道を立てて説明すること、その説明から新たな性質や関係を読み取ったりすることを重視する。</li> <li>・「関数」の領域では、身のまわりで起こることを関数として捉え、表、式、グラフなどを用いて変化や対応の様子を調べてその特徴を説明したり、表、式、グラフなどから新たな関係や特徴を読み取り具体的な場面で解釈したりすることを重視する。</li> <li>・「資料の活用」の領域では、資料に基づいて集団の傾向や特徴を捉え、それを基に判断することを重視する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1分野については、「エネルギー」「粒子」などの科学的な見方や概念を柱として内容を構成し、科学に関する基本的概念の一層の定着を図る。更に科学技術と人間、エネルギーと環境など総合的な見方を育てる学習になるよう内容を構成する。</li> <li>・第2分野については、「生命」「地球」などの科学的な見方や概念を柱として、内容を構成し、科学に対する基本的概念の一層の定着を図る。更に、生命、環境、自然災害など総合的なものの見方を育てる学習になるよう内容を構成する。</li> <li>・科学的な思考力・表現力の育成を図るため、生徒が目的意識を持って観察・実験を主体的に行うと共に、観察・実験の結果を考察し表現するなどの学習活動を一層重視する。小学校で身に付けた問題解決の力を更に高めると共に、観察・実験の結果を分析し、解釈するなどの科学的探究の能力の育成に留意する。</li> <li>・科学的な知識や概念の定着を図り、科学的な見方や考え方を育成するために、原理や法則の理解等を目的としたものづくり、理科で学習したことを野外で確認し、野外での発見や気づきを学習に生かす自然観察など、科学的な体験や自然体験の充実を図る。</li> <li>・理科を学ぶことの意義や有用性を実感する機会を持たせる観点から、実社会・実生活との関連を重視する内容を充実する。また、持続可能な社会の構築が求められている状況にがんがみ、環境教育の充実を図る方向で内容を見直す。これらを踏まえ、例えば第1分野の科学技術と人間、第2分野の自然と人間についての学習の充実を図る。</li> </ul>

\*中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」を基に編集部で作成

置では、新学習指導要領の内容の一部が前倒して導入される。それに伴い、順次、授業時数も増加される(図2、3)。ただし、選択教科などの授業時数が削減されるため、総授業時数は変わらない。移行期間中、現行の教科書に記載のない内容については、文部科学省が必要な資料等を作成し、配付することになっている。

なお、高校入試の問題には、各学年で学んでいない内容が出題されないように配慮されることは、指導上、重要なポイントとなる。

### 移行措置開始までに 取り組むべきこと

09年度からの移行措置の開始に備え、08年度内に年間指導計画などを完成させる必要がある。以下に、移行措置が始まるまでの具体的なスケジュールについて紹介する。

#### ●08年12月まで

- 各教科の改訂の方針、並びに09年度より新たに加わる内容等について、学習指導要領および解説書などを参照して確認する。

- 他学年からの移行、また現在は発展的な内容として扱われているものについて、現行の教科書で確認。教科書に記載がない場合は、文部科学省が配付する資料を用いて指導内容を確認する。

図2 数学・理科の授業時数の変化

数 学					理 科				
(年度)	第1学年	第2学年	第3学年	合計(時間)	(年度)	第1学年	第2学年	第3学年	合計(時間)
現行	105(3)	105(3)	105(3)	315	現行	105(3)	105(3)	80(2,3)	290
2009	140(4)	105(3)	105(3)	350	2009	105(3)	105(3)	105(3)	315
2010	140(4)	105(3)	140(4)	385	2010	105(3)	140(4)	105(3)	350
2011	140(4)	105(3)	140(4)	385	2011	105(3)	140(4)	140(4)	385
2012	140(4)	105(3)	140(4)	385	2012	105(3)	140(4)	140(4)	385

\*文部科学省「移行措置期間中の標準授業時数について」を基に編集部で作成  
※( )は週あたりのコマ数

図3 移行措置期間(09~11年度)の新しい学習内容(抜粋)

「内容の取り扱い」についての変更は省略。詳しい内容は、文部科学省のサイトを参照  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/ikou/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/ikou/index.htm)

	数 学	理 科
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>A(2)エ 文字を用いた式による表現や読み取り</li> <li>B(1)イ 平行移動、対称移動、回転移動</li> <li>C(1)ア 関数関係の意味</li> <li>D 資料の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1分野(1)イ (ア)力の働き</li> <li>第2分野(1)ウ 植物の仲間</li> </ul>
第2学年	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1分野(4)イ (イ)酸化と還元 (ウ)化学変化と熱</li> <li>第2分野(3)ア 生物と細胞</li> <li>(3)ウ 動物の仲間</li> <li>(3)エ 生物の変遷と進化</li> <li>(4)ウ 日本の気象</li> </ul> <p>※第2学年は、10年度から追加</p>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>A(3)ウ 解の公式を用いた二次方程式の解法</li> <li>B(1)エ 相似な図形の面積比と体積比</li> <li>B(2) 円周角と中心角の関係</li> <li>C(1)エ いろいろな事象と関数</li> <li>D 資料の活用</li> </ul> <p>※第3学年は、10年度から追加</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1分野(5)イ (ア)仕事とエネルギー (6)ア (ア)水溶液の電気伝導性 (イ)原子の成り立ちとイオン</li> <li>第2分野(5)イ 遺伝の規則性と遺伝子 (6)イ (イ)月の運動と見え方</li> </ul> <p>※11年度からの追加内容は省略</p>

\*文部科学省「移行措置の概略(中学校数学・理科)」を基に編集部で作成

- 前記を踏まえ、年末ごろまでに09年度の指導方針を取りまとめ年間指導計画の1次案を作成する。更に、そのために必要な指導や教材の具体的な内容を検討する。

#### ●09年1月以降

- 各学年並びに小学校・高校の学習内容との系統性を踏まえ、1次案を検討する。同時に、

評価の方針を策定する。

特に理科では、教材の準備や理科室の使用計画作成などに時間を要する可能性がある。できるだけ早く具体的な計画の立案を始められるとよいだろう。

# 教科の原点を見つめ直して 日常生活の視点から教材を工夫する



国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長 工藤文三

## 新たな学力観を見据えて 学習指導の見直しを図る

今後の理数教育には、基礎的な知識・技能の習得にとどまらず、思考力、判断力や表現力の育成が求められます。これまでも、これらの力を育成することは重視されてきましたが、PISAなどの調査結果を見る限り、知識・技能を活用する力や、思考、判断、表現にかかわる力を身に付けることが一層必要とされるものと思われまます。

このような状況の背景には、教師が日々の指導の中で、内容を次々に扱うことに追われて、生徒にどのような力が必要なのか、どのような力が育っているのかという点への配慮が、必ずしも十分ではなかったという事情があるのではないのでしょうか。

指導の改善を図るには、教師が基本に立ち返り、教科の本質について改めて考える必要があります。「数学・理科という教科をなぜ勉強させるべきなのか」という視点から、これまでの授

業を振り返ってみてください。

高校入試の問題自体も、次第に論理的思考力などを問うものへと変わりつつあります。その流れに対応するためにも、今後はより指導の改善が求められているといえるでしょう。

新学習指導要領では、数学と理科のいずれにおいても、日常生活や社会との関連を意識した指導が重視されています。これを授業で具現化する際には、教科の本質を捉え直すことが必要となります。その作業は、教師にとって、学習内容が生活や社会の中でどのように生かされているのかを、再認識することにもつながるでしょう。

例えば、近年の携帯電話の料金体系は非常に複雑ですが、数学的な関数の考え方やグラフなどの技法を用いることにより、わかりやすく理解することができます。このような事例は、毎日の生活の中に数多く存在します。教科書だけを見て指導するのではなく、教師自身がもの見方を柔軟にし、社会に目を向けて、目の前にいる生徒にとって適切な素材を探し出してください。

さい。その際には、なるべく身近なものから探すなど、生徒の興味・関心を意識する視点を忘れないことが大切です。

## 視野を広げ さまざまな研修機会を活用する

これまでの指導方法を大きく変えることに、不安を感じている先生もいるでしょう。「どこから手を付ければよいのかわからない」と、戸惑っている先生もいると思います。特に、前回学習指導要領が改訂された1998年度以降に教師になった方にとっては、初めて教える内容も少なくありません。

指導の改善に向けて、ベテラン教師の知恵を借りたり、教育センターや科学教育の関連機関の資料等を利用したりするのは一つのよい方法です。また、書店には、教科学習から少し離れて、数学や理科の面白さを伝える書籍がたくさん並んでいます。そうした書籍の中から教師自身が興味を持ったものを選んで授業に応用すれば、教科に対する生徒の興味を喚起することができるかもしれません。

これまでの指導をいきなりすべて変えようとするのではなく、まずは自分の得意な単元から改善していく気持ちで始めてみてはどうでしょうか。日々の業務で忙しいとは思いますが、学習指導要領の改訂をよい機会と捉えて、教師自身が学び直す気持ちで、教科指導の改善を進めてください。

Information and  
Communication  
Technology

# 明日から使える ICT講座

第3回 調べ学習での情報収集

## 多面性・鮮度の高さが インターネットの利点

調べ学習の際、インターネットは書籍や新聞とは異なる特長を持つ情報源となります。

利点の一つは、多面的な情報が得られること。一つの話題に関して、新聞社による報道や官公庁などの公式な見解、個人の感想など、さまざまな視点の情報に触れられ、視野が広がります。鮮度の高い情報を得られるのも大きな利点です。例えば、市販の資料集の場合、最新版でもある程度の時間差が出ます。今まさに

# インターネットの 利点を知って 調べ学習に活用！

インターネットは多彩な情報にすぐに触れられるのが最大の利点。調べ学習でも大活躍します。著作権や情報の信憑性などに関して、指導を事前にきちんとし、授業に大いに活用しましょう。

起きていることを調べる場合は、インターネットの方が優れています。

このように、インターネットは非常に便利なメディアですが、生徒に使用させる場合は事前に次のような指導が必要です。

まず情報モラルへの理解です。著作権と肖像権について説明し、インターネット上で見つけた文章や写真を引用する場合には出典を明示した上で、自分の意見と区別するように指導しましょう（情報モラルについての詳細は次号で説明します）。

次に、インターネット上の情報は玉石混濁いしごんじうですから、信憑性を確認す

る重要性やその方法をきちんと伝えることも大切です。また、目的の情報を効率よく見つけるために、例えば「環境」だけで検索するのではなく、半角スペースを空けて国名や資料名など複数の検索条件を入力し、必要な情報に早くたどり着けるよう検索方法も指導しましょう。

次ページに調べ学習に活用できるサイトを挙げました。調べ方に慣れないうちは、教師が2、3のサイトを指定し、情報の取り出し方やまとめ方を練習させることをお勧めします。生徒が調べ終えたあとに例として挙げる形でもよいでしょう。

### 活用度UP！ | ワンポイントアドバイス

#### 信憑性を確認する場合のチェックポイント

インターネットは、だれでも自由に情報を発信できる場です。膨大な情報が溢れていますが、それだけに情報の質はさまざまです。調べ学習の資料として使う場合は、以下のような方法で信憑性を確認する必要があります。

- ウェブサイトの運営元を確認する。官公庁などの公的機関や大企業のウェブサイトは信頼性が高いことが多い。個人がつくっているサイトの場合は、出典の有無などにより、サイト運営者個人の主観的な意見か、事実かどうかを確認する。
- 教科書や資料集などの印刷媒体や、同じ話題を扱っているほかのサイトと比較し、異なっている部分を中心に確認する。



講師 **中川一史**先生

独立行政法人メディア教育開発センター教授。数多くの小・中学校で指導・助言を行っている。

## 調べ学習に使えるお役立ちサイト

教材研究にも使える信頼性の高いウェブサイトをテーマ別に紹介します。

### 環境

- 環境省「こどものページ」  
<http://www.env.go.jp/kids/>  
地球温暖化、ゴミ問題、大気汚染など、環境に関するリンク集が充実。
- 国立環境研究所「いま地球がたいへん！」  
<http://www.nies.go.jp/nieskids/>  
現在の環境諸問題について、わかりやすく解説。
- 国土緑化推進機構「こども森林ひろば」  
<http://www.green.or.jp/kodomo/>  
日本の森林について、環境面・歴史的側面から紹介。

### エネルギー

- 東京ガス「みんなのエネルギー広場」  
<http://www.tokyo-gas.co.jp/kids/>  
ガスを中心に、エネルギーや環境について幅広い情報を掲載。
- 日本ガス協会  
<http://www.gas.or.jp/default.html>  
ガスや燃料電池など、最新のエネルギー利用について解説。
- 東京電力「環境学習ブック」  
<http://www.tepco.co.jp/custom/LapLearn/index-j.html>  
エネルギーやエネルギー施設について調べられ、まとめ方や発表のヒントもある。

### 宇宙・科学

- 宇宙航空研究開発機構「JAXAクラブ」  
<https://www.jaxaclub.jp/cgi-bin/index.cgi>  
宇宙や、宇宙飛行士の仕事などについて調べられる。
- 科学技術振興機構「JSTバーチャル科学館」  
<http://jvsc.jst.go.jp/>  
科学の諸分野について、科学館の見学をしているように体験できる。
- 科学技術振興機構「理科ねっとわーく」(一般公開版)  
<http://rikonet2.jst.go.jp/>  
理科で使えるデジタル教材が豊富。教師用の教材を入手できるページもある。

### 政治・法律

- 参議院「キッズページ」  
<http://www.sangiin.go.jp/japanese/kids/watakusi/>  
国会の仕組み、議員の仕事などがわかる。
- 首相官邸「キッズルーム」  
<http://www.kantei.go.jp/jp/kids/index.html>  
日本の憲法や内閣、総理大臣について紹介。
- 法務省「Kids Room」  
<http://www.moj.go.jp/KIDS/index.html>  
法律や裁判員制度について調べられる。

### 経済・金融

- 経済産業省「KID'S PAGE」  
<http://www.meti.go.jp/intro/kids/index.html>  
経済、環境・エネルギー、情報化の分野などの今の話題が詳しくわかる。
- 金融庁「わたしたちの生活と金融の働き」  
<http://www.fsa.go.jp/fukukyouzai/index.html>  
経済や金融について、基本的な内容がわかる。
- 日本経済団体連合会「キッズコーナー」  
<http://www.keidanren.or.jp/kids/>  
「総合学習のヒント」のページには、企業のキッズコーナーへのリンク集がある。

### 世界

- 外務省「KIDS外務省」  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/world/index.html>  
世界の国の情報を調べられる。「面積」「人口」「輸出量」といったテーマ別世界ランキングもある。
- 「国連KIDS」  
<http://www.unic.or.jp/kids.htm>  
世界各国の状況や課題、国連の役割について調べられる。
- 日本ユニセフ協会「子どもと先生の広場」  
<http://www.unicef.or.jp/kodomo/index.html>  
世界各国の子どもの暮らしがわかるサイト。

## 検索サイトの使い方 指導例

**例 1** 調べ学習をするサイトから、生徒が自分で検索をする  
サイトから情報を取り出し、まとめる作業に慣れてきたら、当ページの検索サイトのみを伝え、どのサイトを選ぶかという点から練習させる。

**例 2** 検索サイトでの基本情報と組み合わせ、関心を高める

例えば、「環境問題」をテーマに調べ学習をさせるとき、最初にGoogleマップで北極の位置を確認させ、後にJAXA(宇宙航空研究開発機構)のページ(下記)の北極の海氷に関する情報など具体的な話題を提示。子どもの関心を引き出した上で、調べ学習に入ることができる。

<http://www.eorc.jaxa.jp/imgdata/topics/2008/tp080430.html>「ますます薄くなってきた北極海の海氷」



### キャリア教育

- 「13歳のハローワーク」公式サイト  
<http://www.13hw.com/>  
仕事について調べられ、さまざまな職業に就いている大人に質問ができる。
- 図書文化「PASカード」  
<http://www.toshobunka.co.jp/pascard/>  
職業に加え、高校や大学の学科や学部についての紹介もある。

### 統計・検索全般

- 総務省統計局「なるほどデータforきっず」  
<http://www.stat.go.jp/kids/>  
国土、人口、労働など、さまざまな分野の統計データがある。
- 教育情報ナショナルセンター  
<http://www.nicer.go.jp/>  
教科書の目次から、関連するサイトが検索可能。全教科対応。
- Googleマップ  
<http://maps.google.co.jp/>  
地図の検索に便利。オリジナルの地図を作れる機能もある(要登録)。
- Yahoo!きっず(子ども向け検索サイト)  
<http://kids.yahoo.co.jp/>
- キッズgoo(子ども向け検索サイト)  
<http://kids.goo.ne.jp/>

\*上記の情報は、すべて08年8月現在のものです

## 特集

## 3

## 教師はコーチ、保護者は応援団長

## 3年秋からの進路指導

3年生にとって、秋以降は進路を決定する大切な時期だ。生徒が主体的に、悔いのない進路を

決められるようにするために、学級担任や進路指導主事(主任)はどのような指導や援助をすればよいのだろうか。

今回は、進路指導に詳しい中学校の先生方への取材を基に、秋に行う進路指導のポイントを整理する。

秋以降、3年生は進路決定の正念場を迎える。

中でも、高校訪問と面談(進路相談)は生徒にとって志望校決定の節目となる大事な機会だ。教師と生徒がそれぞれ情報を収集し、進路を考える際のポイントを整理すると次のようになる。

## 【視点・観点】

①高校に合格するための自信ではなく、入学後の学習・生活に対する自信が持てるか——生徒自身の興味・関心、体力、学力、性格など

②志望校が将来の進路希望とつながっているか——ほかに選択肢はないか

## 【把握する情報】

①保護者の意見、家庭の状況  
②高校の情報——校風、教育方針、費用、生徒

の活動、進路状況、教育環境など

こうした情報収集・提供の程度について、東京都台東区立上野中学校の関本恵一校長は「志望校決定の直前まで可能な限り行った方がよいでしょう。中学生の発達段階では、生徒は、嫌なことや辛いことに立ち向かうための、自分自身への理由付けができません。そこで、教師がそれらを考えるきっかけを多く与えることが必要です」と説明する。

進路相談の心構え  
10か条

秋の高校訪問は、夏以前の高校訪問とは位置

付けが異なる。「この学校なら満足できる」と

いう確信を得るための訪問と捉え、単に高校の雰囲気をつかむのではなく、自分の入学後の姿を思い描けるように具体的に見るよう指導する。

学校訪問と前後して行う進路相談は、日々の声かけ、放課後の相談、三者面談までさまざまな種類があるが、特に具体的な進路選択を前提とした秋以降の進路相談では、その種類を問わず以下の観点を押さえておく必要がある。

## 【教師の役割】

①進路や志望校に対する生徒の気持ちを的確に把握する

②生徒の個性・適性と志望校が合致するかを十分に検討する

## 学校訪問のポイント

秋の高校訪問では、それまでの学校訪問よりも具体的に見るように指導する。志望校合格に必要な成績に達していない場合でも、高校を訪問することによって「どうしてもここに行きたい!」という思いが強まり、頑張るようになる。

### 【訪問前の指導】

- ・服装・礼儀
- ・聞きさすポイントを具体的に伝える  
特色・教育方針、設置学科、生徒会活動、授業・学習の特色、主な学校行事、取得できる資格、施設・設備、卒業後の進路、部活動の様子

※公立／私立、普通科／専門学科等の種類を問わず、見るべきポイントは同じ。むしろ、同じ基準で複数の学校を見比べて選ぶことが大切

### 【訪問後の指導】

- ・学校要覧、卒業生の進路状況など、もらった資料にはすべてしっかり目を通させる  
例えば、部活動など、自分の関心があるところだけ見てはいけない。魅力を感じる部活動があっても、建学の精神・教育方針などが合わなければ望ましくない
- ・得た情報を整理し、活用させる  
訪問結果を文章化してまとめさせたり(P.31資料「訪問後に生徒が記入する報告書」参照)、発表会や報告会を開く
- ・時間の設定を工夫する  
事前・事後指導の内容によっては、朝の時間、各教科、学級活動と関連させて進めるなど、授業時数の確保を考えて活動時間を設定する
- ・ポイントを絞って様子を聞く(話をさせる)  
まとまった時間を取る必要はないが、こまめに声をかける。例)教師「どうだった? 雰囲気は?」  
生徒「学校がきれいだった」→教師「じゃあごみは落ちていなかった?」  
生徒「校舎が古かった」→教師「でも掃除はきちんとされていた?」など。回答が曖昧なら再訪問し、確認させてもよい

### 【その他】

- ・保護者の学校訪問も勧める  
一部の私立高校などでは、保護者の学校訪問を受け入れている。子どもの性格や特徴を最もよく知っている保護者の目で、その学校が子どもに合っているかどうかを見てもらう。親子の会話のきっかけづくりにもなる
- ・受験する学校は最低1回は訪問させる  
もし受験する学校への訪問機会がなかった場合、せめて募集要項を自分で取りに行かせる。通学経路・所要時間もわかる

③ 将来の希望と進学先との関連を考え、可否の可能性について十分検討する

④ 狭い観点からの選択ではなく、生きがいや個性を伸ばすといった広い視野で考える

⑤ 教師は、志望校選択にあたって助言・指導する立場にあることを再認識する

⑥ 担任1人だけでなく複数の教師の目で見て援

助する

【生徒への働きかけ】

⑦ できる限り正確な情報を提供し、日頃の学習状況に基づいた助言・援助を行う

⑧ 生徒には客観的な情報を提示し、適性等も発展的に捉えさせる

⑨ 生徒が自主的に志望校を選択・決定し、今後

の準備等についても意欲的に取り組めるように助言・援助する

⑩ 保護者の意向も尊重しながら、最終的には生徒の意思で決定させる

## 進路を考え学習に集中する 雰囲気をつくる

学級担任として配慮すべきことは、生徒の日々の生活習慣、健康、物事に取り組み意欲だ。熊本県南小国町立南小国中学校の桑崎剛教頭は、「普段の生活態度をしっかりと見て取ることが、秋から入試直前まで、生徒の状態が上り調子なのか、または逆なのかの、学力の伸びしろを見極める指標の一つとなります」と説明する。

個別指導だけでなく、進路決定に向けた学級・学年全体の雰囲気づくりも重要だ。例えば、教室内を整理整頓し、進路選択に関する掲示物は目につくところに貼る。または、廊下など学年共通のスペースを活用する。これらは、進路指導主事や学年主任がリードして担任全員に働きかけるとよい。

「落ち着いた雰囲気づくりが難しい学校もあるかもしれませんが。しかし、例えば、掲示物が破られていたら必ず翌日までに貼り直すなど、教師自身が目標に向かって粘り強く頑張る姿を見せれば、すぐには効果が表れなくても生徒は教師の意図を理解できるはずだ」(関本校長) こうした細かい指導の積み重ねが、勉強した

### 特集 3

教師はコーチ、保護者は応援団長  
3年秋からの進路指導

## 三者面談のポイント

学校訪問など、秋までのさまざまな情報収集の結果を、生徒自身が消化できるようにするのが面談の役割。行事予定に入っている面談だけでなく、普段からのこまめなコミュニケーションが大切だ。

### ◎面談の目的を生徒と保護者にはっきり伝える

「今回は第2希望・第3希望を決める」など、面談の目的を事前に生徒に知らせておく、面談の質が高まる。

<NG> 普段の呼び出しには応じない保護者に対して、こぞとばかりに生活態度など進路以外の話題を持ち出す。

### ◎担任ならではの視点を生徒と保護者に提供する

保護者と生徒の関心は数値に基づいた合格可能性に傾きがちだが、その進路選択が適かかどうかという別の視点を持つ。そのためにも、事前に多くの教師の観点を持ち寄り、生徒一人ひとりの進路を幅広く検討しておく。

### ◎必要に応じて、三者面談の前に保護者との二者面談を行う

生徒だけでなく保護者への気配りも大切。例えば経済的な問題などは、保護者が子どもの前では言いにくいと感じることもある。特に難しい状況にある家庭は、三者面談の前に保護者とだけ面談してもよい。

### ◎会話しやすい雰囲気をつくる

教師と保護者、生徒が机を前に向かい合って座らず、L字型に座ると、皆で一緒に考えようという姿勢を示すことができる。机の上に観葉植物などを置いてもよい。

### ◎キャリア教育の内容を活用し、振り返らせる

それまでのキャリア教育で作成・蓄積してきた資料がある場合は、面談の席で生徒と保護者に見せる。「このときはこんな風に考えていたな」と振り返ることで、面談内

容に広がりを持たせる。

### ◎塾の情報は頭から否定せず、保護者の話に耳を傾けつつ、学校としての意見を伝える

#### [若手教師の場合]

### ◎自分一人の判断ではないことを伝える

保護者に対して、「いま話している内容は自分の意見ではあるが、学年主任など、多くの先生が検討に加わって合意している」という趣旨を伝える。

### ◎先輩教師に同席してもらう

「自分はまだわからない部分があるので先輩も同席させていただきます」と素直に保護者に伝え、先輩の先生に同席してもらうのも一案。その場合、若手教師は先輩の対応をしっかり学び取る。

#### [面談前後のフォロー]

給食のときに一言「最近頑張っているな」と声をかけるなど、継続的にこまめに言葉を投げかけることが、生徒の意欲向上につながる。特に、保護者が子どもの進路に無関心な場合は、その分、教師が生徒とたくさん接して「自分の将来は自分自身で考え、生きていかないとはいかないぞ」と伝えるなど、生徒自身を「大人」にする。



い生徒が孤立せず安心して学習できるように、かつ周囲の生徒も含めて落ち着いた雰囲気教室にもたらず。

### 若手教師に意識させたい 早めの「報・連・相」

進路指導の知識や経験が少ない若手教師に対しては、生徒一人ひとりの進路について学年全体で考え、情報を共有することの大切さや、問題が起きそうな場合は早めに周囲の教師に相談することを意識させたい。桑崎教頭は、「進路指導は時間との戦い。保護者とトラブルになりそうなときなど、責任感やプライドから若手教師が1人で問題を背負い込んでしまい、悩んでいる間に事態が深刻になることがあります。ベテランの先生は、『もっとこんな方法がある』『保護者にこう伝えてみたらどうか』など、先輩としてのノウハウを積極的に示す必要があります。注意したいのは、ベテランが若手の代わりに問題を解決してしまうのではなく、あくまでもアドバイスに徹すること」と指摘する。

かつては若手が先輩の言動を見習って習得したスキルも、今の若手には言葉にして伝えないと伝わらないことがある。「現場の多忙化が進み、教師自身が上級学校を訪問して、学校の様

## 【資料 高校訪問を行う際の文書テンプレート】

高校訪問は訪問先の学校が関係するため、信用問題に留意する。必要な情報は文書化し、問題発生時や、アンケートや報告書から改善事項があれば、次回までに対応し、次の担当者に引き継ぐ。

※本ページに掲載している文書のテンプレートは、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトから加工可能な形式でダウンロードできます。是非ご活用ください。

**ダウンロード** <http://www.benesse.jp/berd/center/open/chu/view21/2008/09/index.html>

(または「ベネッセ 研究」で検索> Benesse教育研究開発センターHOME>情報誌ライブラリ>中学校向け>バックナンバー-2008年度)

## 訪問後に生徒が記入する報告書

### 項目例

- ①学校名・設置形態（共学、男子、女子）
- ②住所・電話番号
- ③交通機関（自宅からの通学経路）
- ④設置学科
- ⑤特色・教育方針
- ⑥授業の特色
- ⑦生徒会活動
- ⑧主な学校行事
- ⑨取得できる資格
- ⑩施設・設備
- ⑪卒業後の進路
- ⑫部活動の様子

## 訪問先の学校に送る依頼状（訪問前）

平成20年○月×日

○○○○学校長 様

△△△立△△中学校長

「学校訪問・学校見学」についてのお願い

拝啓

○○の候、貴校にはますますご発展のこととお慶び申し上げます。さて、生徒の進路学習の一環として、3年生の学校訪問についてご理解・ご協力をたまり誠にありがとうございます。つきましては、下記のように貴校を訪問させていただきたいと存じます。ご多用のところ恐縮ではございますが、ご指導をよろしくお願いいたします。

なお、訪問する生徒にアンケート用紙を持参させていただきますので、ご記入くださいますようお願い申し上げます。

敬具

1.訪問日時 月 日 ( ) 時 分

2.生徒訪問 名 \_\_\_\_\_

○年○組 \_\_\_\_\_

※生徒にいたらぬ点がございましたら、遠慮なくご指導をお願いいたします。

担当者 ××××  
(電話:△△△△△△△△)

## 訪問先の学校に送るお礼状（訪問後）

平成20年○月×日

○○○○学校長 様

△△△立△△中学校長

拝啓

○○の候、貴校にはますますご発展のこととお慶び申し上げます。さて、この度の本校の学校訪問にあたりましては、ひとかたならぬご協力をたまり誠にありがとうございました。ご快諾くださった校長先生とご指導いただいた先生方に感謝申し上げます。

生徒たちは、今回の体験を基に、より一層勉学に励み、自らの進路を切り開く努力をしてくれるものと確信しております。

今後とも本校生徒に対しまして温かいご指導をたまりますようお願い申し上げます。書面で失礼ではございますがお礼に代えさせていただきます。

敬具

## キャリア教育の観点を無駄なく無理なく導入

子を肌で感じる機会は少なくなりました。それでも若手は情報収集する時間を捻出する工夫と熱意が必要だし、ベテランは、以前とは状況が異なることをくんで、高校の様子などを具体的に指導してほしい」（関本校長）

小誌が行った読者アンケートでは、3年生になると、それまでに行ってきたキャリア教育が受験によって意味をなさなくなる、という趣旨の声が寄せられた。これに対して埼玉県ふじみ野市教育委員会の堀川博基指導主事は、「そんなことはない」と強調する。「職場体験やその前の調べ学習、受け入れ先の選択など、自分の将来に関する情報を収集したり、考えたりするプロセス自体が、進路を考える意欲の土台になっています。職場体験だけではなく、学校訪問や日々の教科指導などでも同じ。普段から『なぜ、何のためにそれをしているのか』を考える習慣を付けさせる指導を積み重ねることで、進路選択の際にも、生徒がなぜその学校に行きたいのかを、自然と自問自答するようになります」

進路選択の主役は生徒であり、スポーツに例えれば教師はコーチ、保護者は応援団といえる。入試に向けて生徒の緊張感やストレスが高まる中、教師が「一丸となって、生徒に「つかず離れず寄り添う」指導を心がけたい。

## 特集 3

教師はコーチ、保護者は応援団  
3年秋からの進路指導

# 好奇心のおもむくままに得た知識が 研究者としての土台を築いた

S A T O S H I

北里研究所名誉理事長 日本学士院会員

# 大村 智

天然有機化合物の研究において世界的な権威である大村智北里大名誉教授。独創的で多彩な手法を通じて、微生物が生産する化合物を約400種類も発見した。そのうち20種類が、現在も医薬や動物薬、農業、研究用試薬として世界中で使われている。大村教授の研究の原点と独創性の源をうかがった。

## 土の中の微生物が7000万人を救う

1グラムの土の中に、微生物がどのくらいいるか知っていますか。その数、なんと1億個以上。微生物は肉眼で確認するのも難しいくらい小さな生き物ですが、有用な化合物をつくり出すものもあります。例えば、現在使われている薬の約4分の1は、微生物の生産する化合物からつくられているのです。

1979年に私共が発見した抗寄生虫薬エバーメクチンもその一つです。エバーメクチンを基にしてつくられた薬は主に畜産に貢献し、20年余りに渡って世界の動物薬の売り上げ1位を記録しています。この薬は人間の寄生虫にも効果があり、アフリカの風土病で重度の視力障害を引き起こすオンコセルカ症の特効薬として、1年間で7000万人以上の人々に投与され、失明から救っています。

そうした素晴らしいパワーを持つ微生物と出会ったのは、化学を学んできた私が恩師の誘いで、山梨大の発酵生産学科で助手をしていたときです。微生物の一つである酵母で発酵の実験をしていたとき、酵母の働きによってブドウ糖があつたという間にアルコールに変化する様子に心が揺さぶられました。「人間ができない

ことを可能にする微生物はすごい」。この出会いが、私の研究人生の出発点になりました。

## 人の役に立つ薬をつくりたい

微生物の研究を本格的に始めたのは、北里研究所に入所してからです。研究所には、創立者であり伝染病の研究で歴史に名を残した北里柴三郎博士の教えである、「実学の精神」が根付いていました。また、私の師である秦藤樹先生は、細菌による感染症の治療薬であるロイコマイシンや抗ガン剤として使われているマイトマイシンの発見者であり、私も「先生たちのようになんとかして人に役立つような薬をつくりたい」と思ったのです。

志は高く掲げたものの、当時の研究所には十分な研究費がありませんでした。日本の研究者の研究費はアメリカの20分の1程度だったのです。私は世界中を飛び回り、経済的な支援をしてくれる企業を探しました。今でこそ国際的な産学協同研究は当たり前ですが、当時は珍しく、「企業の片棒を担いでいる」と批判的な声が少なからずありました。しかし、私は「よい薬をつくるには協同研究が必要だ」と周囲を説得し、研究を進めていったのです。

そして、年間2000〜3000種類もの微生物を土壌から分離して調べ、微生物がつくる新しい化合物を探しました。化合物を見つけるだけでなく、それらの持つ作用を分子レベルや細胞レベルで解析、医薬品素材としての可能性を追求していったのです。

だれも知らない微生物を発見しようとしているのですから、そう簡単に研究は進みませんでした。そんな



# OMURA

ときは、自分の状況を高校・大学時代に熱中していたクロスカントリーに置き換えました。長距離競技では雪山に設けられたコースを15kmも走ります。コースの途中に必ずある上り坂で「もうダメだ……」と気持ちが途切れそうになることもありましたが、しかし、「この坂を越えればゴールは近い」と自分に言い聞かせ、次の一歩を踏み出したのです。高校3年から大学4年まで県大会で5年連続優勝し、国体にも出場できたのは、諦めかけたときに、ぐっとその気持ちを抑えて踏ん張ることができたからだと思っています。頑張れば必ず結果につながる。これは研究においても同じです。辛いときこそ気持ちを奮い立たせ、前へ前へと進んでいったのです。

## 学問は日常の小さな疑問や発見から始まる

35年以上の研究生活を通して、私はエバームメキンをはじめとする微生物由来の有用な天然有機化合物を20種類発見しました。こうした成果を上げることができた最大の理由は、行動力や忍耐力だけでなく、「独自のことをやると失敗する場合もあるが、人を超えるチャンスが生まれる」と考え、微生物の作る新しい化合物を見つけ出す方法を独自に確立したことにあると思います。

アイデアの源になったのは、山梨大の学生時代に学んださまざまな分野の実験や知識でした。当時の大学は1年次から研究室に自由に出入りし、好きな実験ができるようになっていました。私は化学を専攻していましたが、有機化学、無機化学、物理化学など幅広く学びました。ほかにも、興味のあった生物学、地学、人体生理学などの講義を受けました。今思えば、一つの学問領域にとどまらず、好奇心のおもむくままに学んだことが、私の研究者としての基礎を築いたのでしよう。事実、有機化合物の構造決定に、早期に鉍物を解析するのに使うX線結晶構造解析を用いることを何のためらいもなく行えたのも、鉍物学を学んだ経験を生かしたものでした。

学問というのは、学者によって発見されるものではなくわずかで、むしろ、人々が日々の生活の中で見つけた小さな疑問や発見が積み重なってできたものだと、私は思います。そして、疑問や発見は、大学で机に向かって論文を書くことだけから生まれるわけではありません。毎日の生活や普段の勉強にヒントがあることを是非知ってほしいと思います。何か面白い現象を体験したら、自分なりに考え、調べ、わからなかったら人に聞いてみる、実験する、そして理解する。その過程こそが学問を形づくっていくのです。

**おむら・さとし** 1935年山梨県生まれ。山梨大学芸部自然科学科卒業、東京理科大学大学院理学研究科修士課程修了。山梨大工学部発酵生産学科助手を経て、北里大薬学部教授、北里研究所理事・所長などを歴任。現在、学校法人北里研究所名誉理事長、北里大名誉教授、女子美術大理事長。90年日本学士院賞、92年紫綬褒章、2005年米国化学会アーネスト・ガンサー賞など国内外で受章多数。

◎本コーナーに登場する研究者は日本学士院の会員の方です。日本学士院は、学術上功績のあった科学者を優遇するための機関で、人文科学70名、自然科学80名が在籍し、新会員の選定、公開講演会などの活動を行っています。会員に選定されることは研究者として名誉なこととされ、また日本学士院賞は我が国の学界では最も権威ある賞として、毎年初夏に行われる授賞式には天皇皇后陛下が臨席されます。 <http://www.japan-acad.go.jp/>

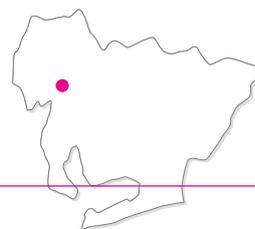
愛知県

## 名古屋市

### 地域との連携を深める

### 生徒の自主活動を支援

学校や家庭、地域を取り巻く環境の変化に対応すべく、名古屋市は初めての中期計画「なごやっ子教育推進計画」を策定した。郷土への愛着心を育てると共に、世界にも目を向けた広い視野を育てていくことを目標の一つに掲げ、生徒主体の取り組みや地域ぐるみで行う学校づくりを支援する。



#### 概略

#### ■愛知県名古屋市

人口約224万人の政令指定都市で、16の行政区を抱える。市政全体の長期総合計画「名古屋新世紀計画2010」に合わせて、2010年を最終年度とする中期計画「なごやっ子教育推進計画」を策定。「夢に向かって人生をきり拓(ひら)くなごやっ子」をテーマに、学校・家庭・地域の環の確立を目指す。市立小学校262校、市立中学校110校。

【名古屋市教育委員会】

〒460-8508 名古屋市中区三の丸3-1-1 TEL 052-972-3235(指導室)

URL <http://www.city.nagoya.jp/shisei/organization/kyouiku/>

### 初の中期計画 「なごやっ子教育推進計画」

2007年、名古屋市教育局(以下、市教委)は、10年度を計画最終年度とする4年間の中期計画「なごやっ子教育推進計画」を策定した。それまでは単年度で計画をまとめており、中期計画策定は市教委にとって初の試みだ。また、この計画は、子どもとの距離が一番近い行政機関である市が教育の責任と権限

を持つ、という姿勢を明確に示したものである。

背景は二つある。一つは、当時の安倍内閣の下、教育改革論議が活発になると共に、地方分権推進の動きが強まったこと。もう一つは、学校や家庭、地域を取り巻く環境の大きな変化に対し、短期的な視点だけでは対応できないという問題意識だ。

同市の中学校教育の現状を見ると、学力調査の結果は全国平均を上回り、学力面で深刻な課題はない。一方、生徒の積極性や自主性の低さ

や不登校生徒の増加、体験活動の減少、外国人生徒や帰国生の増加による多文化共生社会への対応といった、全国共通の課題はある。

こうした状況を踏まえ、市教委では、主体的に学ぶ姿勢づくりや生徒指導の観点から、生徒の積極性を育む取り組みを重点的に進めている。

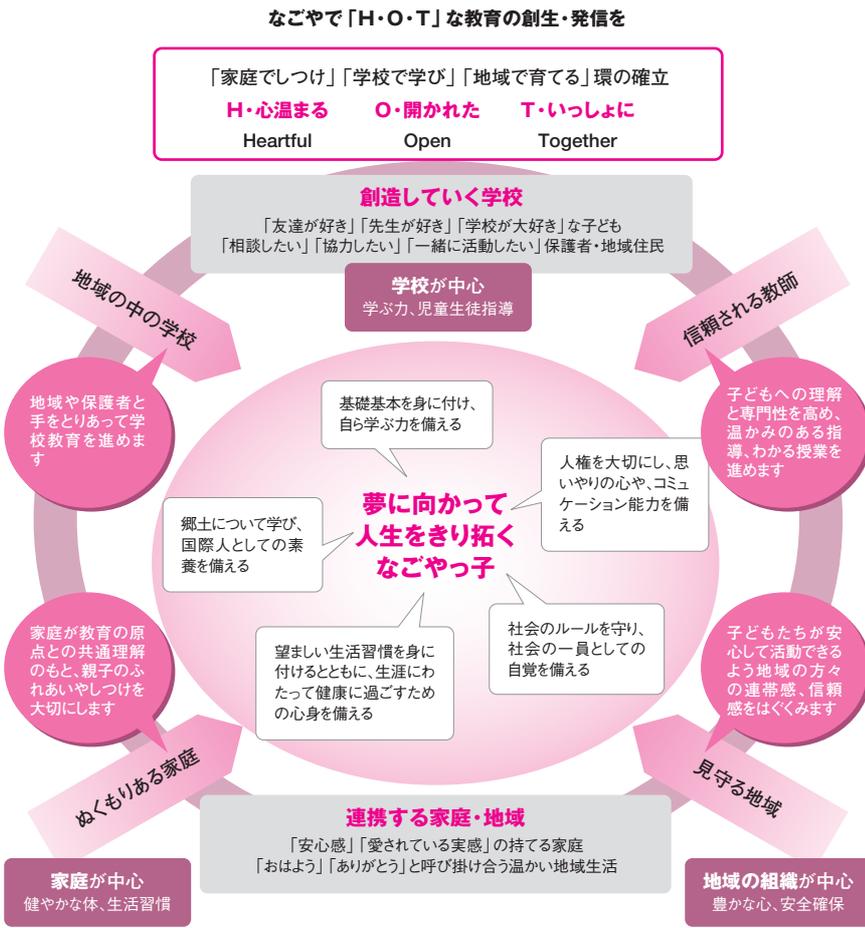
### 地域とのつながりを深める 「夢・チャレンジ支援事業」

同市では、地域の学校として、地

域ぐるみで学校をつくり上げていく姿勢を貫いている。以前から家庭や地域との連携に力を入れていることから、大都市ながら学校と地域とのつながりが深く、保護者の学校に対する満足度も比較的高い、といった特徴がある。通学路での保護者や地域の人による見守りなどが失われる可能性があるため、学校選択制の導入は今後も予定していない。

この方針の下、生徒主体で学校を活性化させ、地域との交流を深める取り組みの一つが、「中学生による

図 「なごやっ子教育推進計画」の基本方針



出典／「なごやっ子教育推進計画」名古屋市教育局委員会

「夢・チャレンジ」支援事業」だ。生徒が自主的に企画・運営する企画か、全校規模の取り組みが可能な企画か、といった観点で市教委が可能な企画、1校当たり最大63万円を援助するというもの。年間予算総額630万円の中で実施校を決める。1999年度に始めて以来、10年間で延べ

273校が応募。08年度は27校が応募し、16校の企画が支援されている。企画の内容は、リサイクル活動や校訓づくり、校歌のアレンジなどさまざま。ここ数年は、生徒が地域参加を求めたり、地域に向けて発信したりする企画が増えている。植物を育てて地域の施設に贈呈したり、校

区内の公園などを地域の人と一緒に清掃したりといった活動だ。指導室内の内藤典子指導主事は、「生徒が地道な活動にも目を向けていることを頼もしく感じます。もっと地域とのかかわりを深めたい、自分たちの学校をアピールしたいと考えている表れでしょう。中学生の活動に対して、地域からの期待も高まっているようです」と話す。

同事業のもう一つのねらいである学校内の活性化について、内藤指導主事は次のように話す。

「生徒に活動への参加を押し付けなくても乗ってきません。ところが、まわりの生徒が学校を楽しくしようと盛り上がっていけば参加しやすい状況が生まれます。生徒の自発性を引き出すことは、各校でも留意している点。生徒の活動を支援する事業は、生徒の積極性や自発性を生むと考えています」と話す。今後は、これまでに応募していない学校に対して個別に応募を呼びかけていく考えだ。

### 環境教育で 他市との連携を深める

このほかの施策として、06年度か

ら始めた「エコ・フレンドシップ事業」(注1)の一環として実施している「環境未来探検隊」がある。市内の小中学生約30人で構成し、夏休みに3泊4日で、06年度は知床や釧路を、07年度は阿蘇や北九州市を訪れ、地域環境への取り組みを学んだ。指導室の加藤幸雄指導主事は、「生活体験が乏しい今の子どもは、訪れた先で見た自然を新鮮に感じたようです。現地の人々の説明を聞き、自分たちは自然を守るために何をすればよいのか、子どもなりに考えが芽生えてきました。普段の教科学習がどう役立つのかという視点も持てたようです」と同事業の成果を話す。更に、毎年、全国約15の政令指定都市から代表の子どもを招待し「なごや子ども環境会議」を開催するなど、「環境教育」を通じたネットワークづくりにも力を注いでいる。



名古屋市教育局委員会  
学校教育指導室指導主事  
加藤幸雄  
Kato Yukio



名古屋市教育局委員会  
学校教育指導室指導主事  
内藤典子  
Naito Noriko

注1 2005年に開かれた「愛・地球博」の理念を継承し、「環境首都なごや」を担う人材を育成することをねらいとしている

# 『VIEW21』中学版 バックナンバー 特集一覧 (2006年4月号～)

最新号およびバックナンバーの記事は、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトでご覧いただけます。  
 知りたいテーマ別に記事を検索できるようになっていますので、ご活用ください。

## 2008年 夏号

【キャリア教育・進路指導】

### 教科で進める「キャリア教育」

【新学習指導要領】

### 事例で見る「言語活動」の取り入れ方

【生徒指導】

### 大人の知らないケータイの世界

## 2008年 春号

【生徒指導】

### つながり、深める「部活」指導

【新学習指導要領】

### 新学習指導要領、ここが変わる

【キャリア教育・進路指導】

### 職場体験の実践ポイント

2008年1月号

### データでひもとく学習指導の「いま」と「これから」

「確かな学力」を育成するために改善すべき点など、学習指導の在り方を考える。

2007年9月号

### つながる「保護者」と「学校」

学校と保護者が協力して子どもを育てる大切さを改めて考える。

2007年7月号

### 生徒が変わる「キャリア教育」

「キャリア・スタート・ウィーク」の本格実施に向けて、実践例を紹介。

2007年4月号

### カリキュラムから考える小中連携

「中1ギャップ」への対応策を、小・中学校の実践事例などから考える。

2007年1月号

### 「学びに向かう」生徒をどう育てるか？

生徒の学ぶ意欲を高めるための具体的な対応策を考える。

2006年9月号

### コミュニケーションが生まれる授業づくり

コミュニケーション能力育成のためのヒントを、研究者の対談や学校事例から探る。

2006年特別号

### 学力調査を指導改善に生かす

「全国学力・学習状況調査」のねらいや結果の生かし方について詳しく解説。

2006年4月号

### 「学校力」を生み出す学校評価

学校評価をうまく取り入れながら、学校力を高めていく方法を先進事例から考える。

ウェブサイトでは2003年度分から掲載しています。

## 編集後記

特集1の座談会では、学校行事でどのような指導をすればクラス全員が輝けるかについて、先生方のお話は尽きることなく盛り上がりました。確かな学力育成のために授業時数を増やす方向にある中、学校行事や教科外活動の意義が改めて問われているように思います。すべての生徒が学校生活のどこかの場面で活躍できるように願っています。小誌は次号で創刊300号となります。特別企画を予定していますので、ご期待ください。(久保木)

VIEW21 冬号  
 中学版

次号は  
**2009年1月上旬**発行  
【VIEW21】中学版は年4回の発行(予定)です

## Benesse教育研究開発センターのアドレス

<http://benesse.jp/berd/>

または  で

## バックナンバー記事へのアクセス方法

1

トップページの左側「情報誌ライブラリ」の下(またはトップページ上部の黒いメニューバー上「情報誌ライブラリ」プルダウンメニュー)にある「中学校向け」のメニューをクリックします



2

画面が切り替わるので、画面左側の「中学校向け」の下にある「バックナンバー」の文字をクリックします



3

『VIEW21』のバックナンバーの目次が発刊年度ごとに表示されます。発刊年度の切り替えは、表紙写真の上にある各年度の文字をクリックします



\*アクセス方法は08年8月現在のサイトを基にご案内しています

VIEW21 中学版 2008 秋号 2008年9月5日発行/通巻第299号

発行人 新井健一  
 編集人 原 茂  
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション Benesse教育研究開発センター  
 印刷製本 大日本印刷(株)  
 編集協力 (有)ペンダコ  
 執筆 柴崎朋美、滝本喬、二宮良太、山口慎治  
 撮影 荒川潤、川上一生、小高和美  
 イラスト タコリトモコ、幸剛

お問い合わせ先 VIEW21編集部  
 〒163-1422 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー22階  
 電話 03-5371-1238

©Benesse Corporation 2008